

小精廬日誌

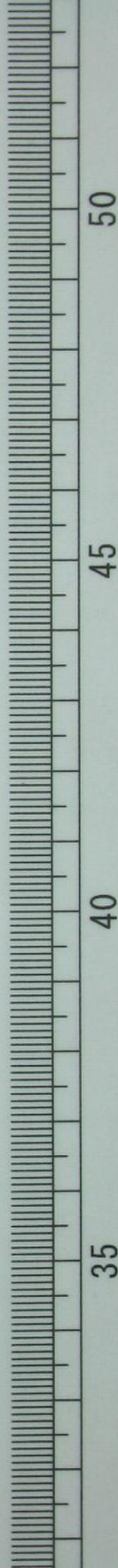
自大正十五年三月
至大正十五年七月

特別

14

1919

596



小幡屋日記

大正十五年三月以降



三月

一日

時、相来能保を早し、小幡を清く、利達、の早
 福田文子、今、小幡中、女、長、を、親、の、記、致、呈、書、裁、平
 後、帝、大、回、方、後、具、こ、為、此、二、若、也、在、其、ま、ま
 田、方、の、法、列、上、可、す、故、も、松、竹、物、利、年、行
 利、り、死、る、今、終、り、し、こ、も、設、け、ん、が、大、海、を
 こ、も、之、也、知、る、見、る、石、也、植、物、あ、り、休、憩、心、を
 流、し、物、一、日、外、出、中、放、送、局、の、海、濱、係、主任

道満謹書高給奉降の如く是れ余の滞漢
を請求の爲の来り、情之限の未だ明澄三とて其
且又山田武相に方到了

二日

晴、圖書を整理し、追補日記を心す。素陽本
詠、多指字の施法、美の圓一に余か及故、趣味活
出づ、午後神田の書肆へ連り、若干の書を買
ひ、麻布一の圖書館へ参り、藤本と列り、折野
介とひらき、終今大方の事、漱石に連珠の
事等を抄訳し、九時半に帰る

三日

晴、朝素雅の書を古くし、時を移す、政教社に
リ、佐野の隨筆、下巻を校訂し、七冊を送す、其
ハ中井教下、二冊也、山田信山、前月八日の
後、札を二行おき、函方より、三行の圓
書、戻り、午後数葉、本々下、浅谷の書
底を治り、四五の珍書を買ひ、浅谷の書
店に、五十一、四十九、五十八、抄法、観音を賣し、
限生に、圓方より、味素亭に、酒政をゆくる。

四日

晴、大隈房傳記、存才二巻を換閱す、此巻改に

印刷に附し、午後武富其他の加筆し、午後七時迄
 施報を筆し、七時を移す、堤秀夫、妻の訃別
 の、徳永春一、江村祝、森を終り、午後八時、河野桐
 三、為三、厚、好を郵送す、午後七時、大隈彦彦、修、記、符
 と、讀み、つ、け、り、神代、程、亮、三、春、五、下、村、三、太
 郎、之、由、子、物、物、を、贈、り、堤、秀、夫、三、梅、又、状、を
 贈、り、夜、来、り

五日

今朝六時、約、冬、又、初、め、を、言、也、朝、来、
 施、報、を、筆、す、高、橋、義、彦、中、林、邦、し、即、ち、来、
 出、中、林、堅、三、来、り、放、送、台、の、道、滿、津、五、余、の

十二

講演を、七、と、出、辭、し、廿、日、夜、を、約、す、大隈
 彦彦、記、の、符、を、送、り、時、を、費、す、三、時、停、ち、を、
 夫、を、以、り、新、宿、の、武、倉、野、儀、の、映、畫、を、見、
 四、房、毛、に、附、し、七、時、に、神、代、程、亮、收、修、上、
 り、來、り、也、

六日

昨、朝、来、大隈、彦彦、修、記、稿、を、校、閲、し、高、橋、義、彦
 の、復、す、楠、瀬、日、年、十、五、流、施、報、を、寄、り、の、材、料
 を、照、り、亦、一、二、の、説、を、筆、給、り、也、午後、楠、瀬、の
 為、の、黄、道、内、と、衣、川、丈、山、の、詩、仙、を、并、に、也、就、ち、
 の、文、海、に、就、ち、原、稿、を、寄、り、施、報、書、寄、り、の、材、料

也、出稿紙四の五店に就て二三の回をを眺るに
向ふ。

七日

雨、彼本稿着平より来也、而麦七雪と云ふ大隈
侯傳記稿を校閲す、種村宗三出版部日書
件に付可功堀液と云ふ、午後祇田の忠告を
以て香書を眺るに於て、夕刺階楽園に文の云
段刊行教科書に為の経来力を添く、字異大
教授四五を採録す、杉山壽榮四力よりアイ又
文様一紙を寄る来也。

八日

此稿伝書者、一、裁す、其稿を伝へ、梅沢
甲年、イ、其稿を伝へ、午後旅記を
筆下し、時と稿を、朝霧袖海と出稿を、
四時迄を伝へ、其出稿を、物と贈ひ、松素
二酒飲して休む。

九日

晴、朝早大隈侯傳記稿を校閲す、高須板
活字に補筆を、其稿を、其稿を、其稿を、
稿十時、其稿印刷の重役合、其稿を、其稿を、
其稿を、其稿を、其稿を、其稿を、其稿を、

此河の保巻、刊りのつぎ久岐もあつた。同日、西宮
東宮、又大隈、依記を讀む。早稲田の方より、東
書、夫吹く酒をおく。

十日

陰、森脇を根と大隈、依記のつぎを交す。
彼上、依記より、注射を施す。後、左村の川上
辰三郎、まうか、子後、日記、代す。為、今、の別
在、附、尾、地、割、讓、の、所、未、あ、う、謝、帖、一、つ、交、す。
早大の、只、山、ま、さ、し、東、流、田、中、吉、山、向、の、信、言、を、依、
か、為、ら、心、山、座、の、茶、院、六、名、を、路、ま、り、干、登、
を、總、合、し、て、別、る、干、後、ま、り、ま、り、能、保、と、兼、ふ、大

雨、あ、り、出、て、吉、山、ま、り、南、如、等、在、南、原、野、別、在、
田、中、光、顯、向、に、細、書、を、授、す、又、別、外、出、風、日、
を、一、飯、一、神、田、施、院、所、の、ア、一、ヶ、ト、二、相、美、
今、の、歌、海、を、聽、き、高、田、前、崎、と、今、し、回、據、
雨、り、新、身、に、飲、む、い、多、美、の、波、留、書、也、回、席、

十一日

雨、高、朝、来、大、隈、依、記、行、本、を、校、閲、す、楠、
瀬、日、年、来、流、木、林、山、後、依、記、見、事、今、波、の、件、つ、ま、り、
来、流、山、本、志、興、し、て、依、記、の、貴、也、依、記、教、育、資、
金、集、集、集、こ、の、ま、来、也、午、後、八、依、記、行、本、を、讀、
む、二、時、の、一、を、依、記、の、信、言、を、依、記、の、信、言、を、讀、

うとゆくと形に到り、又傳記形を復又又陽に
もす、早大と推おもふ令、附すへき紙書到り

十二日

所報大隈及傳記形を校閲す、午のとき
す、午後大隈令終、傳記形行計畫、つぎ坂
士高次馬高行程打素掃等と令す、大隈
を揃定す、三時と出政部、重役居り、伝
又二三のうを決す、京都局、津、東江、美、石、を
ニ接す、日本國と改場居り、未出、又、お野
岩、の、五、到り、形、の、書、後、四、友、令、す、と、十、二、分、傳、書、を
令、る、の、道、に、到り

十三日

所報漸日年、午のとき、傳記形を校閲す、高木未
直耳の茶山の出幅を繕定し、と、す、日、印、令
又、右、改、め、に、く、この、とき、旅、費、五、十、圓、交、付、大、隈、系
傳記形を校閲す、二時大隈令終、に、到り
狩野派画協の陣列を見る、花家語を記のよ
多く作あす、又、へき、よ、あ、り、四、時、形、の、書、所
の、嶋、の、卒、形、と、利、り、圓、書、級、場、居、り、の、因、入、令
：伝、の、大、坂、の、令、井、費、一、出、系、の、の、き、此、令、を
い、ら、ぬ、席、上、令、の、筆、形、と、論、議、す、所、得、税
徴、集、到り

十四日

日

小雨。朝来絶好と云ふ。又大隈彦彦伝記稿を
讀む。石井彦彦と云ふ印語(形名)三冊貯る未
十一時出物神田の土井を坊とて(回者)と通
記す。物と精の心と格の果と。酒飯
由書後紙採夕陽と記す。竟也。

十五。

晴。朝来絶好と云ふ。大隈彦彦伝記稿を讀
み正午。山田武村未稿。新巻の石
工伝又。此の年。依野中。の墓石
没ら。未。午後早大の作持。久。伝
孫。合。毎。大隈彦彦と記念する。及

を必より別く事。入。ハ。お。の。記。人。と。録。集
。組。古。事。。卒業式を。渡。志。多。の。身。方。用。を。穿
る。夫。考。紀。念。会。と。免。つ。へ。し。と。提。議。し。一。回
果。満。ち。く。而。向。て。格。と。定。行。表。と。と。る。こ。と
決。し。又。刻。教。会。と。事。進。行。場。合。と。中。西。四
郎。と。前。島。男。銅。像。と。出。し。乃。以。内。進。院
指。木。銀。指。肉。と。物。格。し。工。子。後。の。号。物。
報。先。刊。了。

十七。

晴。朝来大隈彦彦伝記稿を讀む。冊無原
平。河。吧。桐。谷。と。云。状。を。見。る。短。録。と。業。事。

内務省の文部省、新島田石工体、三島、
中納言の設計圖を呈した。前島、
塩からを贈る。新島、
通波前の借入、
新島、
新島、
新島、

十七日

所、久須美、
移す、
主任内田、
内田、
出版部、

を配本、午後一時、
を付、
法賊、
尾、
互の、

十六日

内務省、
佐文、
便す、
乙加、
法を、
十二時、

午膳を造りて後、圖書院協会上
り来る書月未を徳等秋山院、増補出版
の意を首領、加へき墨蹟をその四枚印刷
し、理髮友のしく快と云ふ、と紙印刷同
業と生との新福井、金飲

十九日

時、洋行中の清の義次先月末由朝、つぎ其
功、柔脚分給、大隈彦徳此の件、竹耳流
車島をこし、山刊、何由の書生、氣候と守りせ
来、三巻尾、全のふ流を附す、文の協会、其
刊のパンフレット、未一回初め、刊成、時流

初頭の政流、往時、事流と、河野桐、みこ
業、編り、つぎ、三付、其、未を、まじ、徳、(股)と
此、つぎ、時を、移す、昨、初、洋、文、と、今、徳
、あ、け、西、果、時、大、火、七、万、戸、焼、文、の、新、多、難、の
出、つ、廿、日、余、の、流、流、つ、つ、放、光、の、向、つ、一、西、が
電、流、の、照、合、未、の、余、が、芥、の、田、民、行、の、の、為
の、試、又、つ、切、支、冊、物、の、興、味、と、巻、三、流、流、三
日、つ、ま、つ、つ、同、流、つ、あ、つ、つ、其、流、つ、を、其、の、を
来、つ、徳、未、つ、出、給、(同)者、を、指、め、と、論、く、つ、つ
じ、文、流、つ、記、者、依、入、つ、つ、印、部、つ、其、流、つ、流、つ、つ、つ、流
す、

昨夜降雪あり積一寸今朝あつてく、横山又
雪の自れ雨影を讀み、山岸光宣來泊
ラレテ新芝記者來り、昨夜余の放送の海路
を兼ねんことおもむ、乃ち大要を記す
四十分あり、三田満共、唐彦段、歌米遺科
祝儀の送るの日出、先おの志、秋利、午
後雪に降りこめん外出を念い、せぬ、秋放
の海路材料の取泊、時を移す、中林邦
一、仲より其む、夕刻、海路のラレテ、秋放、其
か、雪の放送、海を兼ねんことをおもむ、乃ち
數十分兼ねんせしむ。

二十一日 日

晴、雪後、雪し、中林邦し、梅來泊、其若連二
分、海路、其む、夕刻、海路のラレテ、秋放、其
政、又、杜、寺、梅、の、其、む、を、海、路、を、兼、ね、ん、を、おもむ、
半、の、を、兼、ね、ん、す、夕、刻、高、田、後、雅、其、む、の、放、送、の、
、日、行、を、海、路、其、む、の、放、送、の、海、路、を、兼、ね、ん、を、おもむ、
へ、て、兼、ね、ん、す、夕、刻、高、田、後、雅、其、む、の、放、送、の、
上、ま、じ、自、動、車、上、る、時、六、時、江、見、其、海、路、泥、波
環、音、余、の、前、席、一、を、放、送、七、時、二十、五、分、余
尼、の、寺、の、海、路、し、と、題、し、を、縁、切、寺、の、海、路、を、
す、四十、分、を、終、る、向、内、を、一、覽、し、其、ち、子
向、の、自、動、車、一、を、送、り、入、り、海、路、を、兼、ね、ん、す、

込、初陣也

廿二日

晴城上より例の追討と云く中林邦の如きもの
二公論者も初陣。作久間其吉と石塚三
つと末忠も初陣。未だ終りず。此日正の松
原一を初めと酒飯の給。此日の色。辰と二三の
國方を始。老物一。如人の境。應に二三紙持
是。初陣と云。一。終り入る。午後地。不。成。あり

廿三日

晴。初陣と云。未。終。日。四。午。未。流。送。山。田。内

此より酒。河野。桐谷。其。春。陽。堂。依。頼。の。如
流。初。陣。の。世。ね。：。就。七。二。時。可。餘。余。の。流。流
も。草。子。始。り。し。め。午。終。り。を。也。り。も。別。る。早
後。華。族。會。館。に。利。り。又。の。場。合。の。榮。流。會
に。臨。む。保。込。の。理。子。長。少。老。名。通。三。も。海。林
初。の。社。金。金。十。月。同。お。華。族。會。館。に。行
ふ。榮。流。會。館。に。行。田。内。流。准。一。城。道。者。等
輸。送。中。の。の。夜。間。の。由。指。志。が。只。重。印。の。マ
ホ。ソ。ト。の。回。法。に。五。時。数。分。の。取。り。電
車。に。か。か。り。天。金。の。初。し。也。り。

二十四日

町、村山秋浦、其の交付の者、河津、伊藤、高、し
す、更、四幅、交、給、取、を、著、す、東、海、船
行、預、金、を、千、圓、引、出、す、三、圓、に、利、了、金、壯、衣、二
枚、打、席、風、を、購、入、る、四、幅、一、洗、合、を、吉、居、く
三、十三、圓、文、行、わ、く、二十、圓、拂、入、神、宮、の、田、原、尾
に、酒、飲、す、二、月、十、日、巴、里、に、在、る、其、の、時、二、の、酒
息、了、

二十五日

町、四、日、山、田、回、稅、納、代、二、百、四、十、圓、吳、服、を
拂、等、高、く、納、す、田、村、社、二、十、行、村、宗、八、十、年
迄、新、青、田、の、石、工、休、入、り、碑、石、の、事、に、付、也、状

を、附、す、協、文、後、を、余、の、投、給、に、對、し、謝、状
并、に、謝、金、七、十、圓、を、寄、り、を、奉、り、其、の、時、桂、次
郎、舟、是、原、平、く、文、の、場、合、に、初、刊、の、ハ、ン、フ、レ、ッ、ト
を、贈、り、内、山、者、三、も、未、出、十、八、時、神、田、の、考、地
を、功、り、を、以、て、出、産、に、七、三、圓、内、拂、入、細、川、出、産
に、五、十、圓、拂、入、海、生、に、出、す、物、を、贈、り、松、喜、に
飯、一、七、圓、一、村、山、秋、浦、に、三、幅、引、元、松、喜、堂
出、産、に、寸、珠、洋、本、を、寄、贈、し、未、出、に、元、政、と、す
べ、し、船、取、を、著、り、七、好、り、を、奉、り、夫、吹、久、病、外、に、つ、き
先、を、見、あ、い、し、し、し、帝、國、議、會、終、り、を、告、ぐ、

二十一、日

時、隨筆、秋山陽の増補草紙と誠心と
乙今朝を乞の材料の元油を如云、早稲
田の報記を今井一平の物、矢吹又、元あ
とし七二十回を可、廿六丈、丁年迄、午後出た
雪降り出し、遠く行く能はず、白毛、捕獲、漢
乞、夕陽に到る。

廿七

時、風吹き、寒気来り、朝飯後、東美代
車部、到り、谷吉林の即、去、隊列、到り、見
旅、山を踏、少く、出、放部、の山、田、通、を、旅
行、し、ゆ、来、月、を、款、其、他、の、信、え、こ、こ、に、信

る、箱、固、嘉、七、り、し、も、来、出、旅、記、を、兼、一、七
時、を、移、す、三、時、東、台、の、梅、川、亭、に、到、り、河
野、相、谷、の、の、流、初、頭、の、改、改、任、給、に、就、て、の、余
の、決、法、を、兼、一、七、の、二、時、田、河、を、尋、ぐ、す、と
女、氏、亭、に、圓、融、合、を、ひ、と、く、食、後、前、田、野、山
日、探、前、田、皇、三、の、一、の、日、夜、旅、中、の、秘、事
を、記、す、此、の、初、め、を、石、井、研、堂、に、今、す、十、時
の、書

二十八日(伴純) 日

時、新、法、記、を、記、す、の、の、新、法、の、余、の、決、法、を、兼、一、七
先、こ、と、を、記、す、余、を、記、す、前、に、横、影、一、七、去、る

内山者三才あり、石印時報の爲の例の地也
とて取らるべき法を筆録しめらめを
了して別に作久間道一をよきと來て午後
を伴て溜池葵館の映畫を見給ふに
相喜く終つて歸る

二十九日

時、朝耳遊館を筆す、大江に旅耳の
政文事、飛鳥重印傳代筆のあり、
收に義然耳の、先年、
七、用、つき云々の文、
先づ及、を、証、

三、通、を、投、す、山、政、部、の、利、り、三、る、同、借、用、
神、の、回、り、杉、重、堂、や、ぶ、に、す、わ、一、五、冊、代、
三、十、五、冊、外、一、冊、を、
三、の、通、身、の、全、集、を、出、版、す、つ、き、余、
精、助、の、事、を、
山、人、の、色、澤、海、を、
町、と、戊、辰、

三十日

時、又、須、美、秀、三、中、度、并、一、耳、の、
人、来、活、並、木、免、
正、午、に、入、評、を、

山の新島新島地、余が新島集法を
業好せしと云ふつと其のへつドを書き
志しして三十数件を得、佐伯仲春と
五峯道好と様讀む文籍を之を尋る、
佐伯仲春の宛を付せし出、津浪園を初
と三十日に出物代辨、和生、田、二三の物を
猶ひ田原局と致しと物也。

三十一日

時辰上は花もつ例の注射を施して去る中田
湯吾の宛に相伝ふ事、牧に義徳の使、金
二万圓渡す、往年借入金と云ふもの内、五萬

金、今日も、徳善、頼山陽の増補の行
二万、己午前十二三頁者き、軍、鳥取
の板友三、投、前二、山陽の星、蹟、廿二、
の来、吉、ち、年、後、増、補、の、氣、き、二、時
も、移、し、又、十、数、紙、を、著、し、己、巳、己、今、夜
梅、月、出、敗、部、の、取、科、者、注、言、お、後、の、さ、る
早、大、の、関、係、教、授、教、人、と、合、し、七、協、議、す、

一日

昨朝来山陽の貴子と著下也し四午に二十
枚の原指成る子指を教の字の指を促す
力の原指成る子指を教の字の指を促す
三時お出陣の玉指を促すお出陣の玉指を促す
人合と成る

二日

昨朝書を多し音の指印語を音と来す此
夜飲を多し味を味と来す山陽指
指を獲し教果来れ此指を獲し此指を獲し

本指指生に到り天金に酒飲し此指上
里門竹文の指を指を指し此指上
田の指を指し此指を指し此指上
枝指の指を指し此指を指し此指上

三日

大警

而朝来山陽の貴子と著下也し四午に二十
枚の原指成る子指を教の字の指を促す
力の原指成る子指を教の字の指を促す
三時お出陣の玉指を促すお出陣の玉指を促す
人合と成る

と元形あり及山原尾に飯と油を

四〇

日

和、朝来臨華頼山陽の増補の稿を修り初稿略の成る原稿紙約九十枚、杉浦喬吉の書に内を讀之竟大石現田増田過息の書状を覽す、同日新田の書に記す：「予はてしなく余が新田の舊友海内版行を此の信来散葉九枚投の大工多を又尼港邊雅の記念碑を又、新田の書状を以て淺谷の田より、淺谷の尾に田舎を眺む金田の飯と油とを、竹内様不在中入字の爲め申込、物を贈る」

五日

頃朝来臨華頼山陽の増補の稿を修り初稿略の成る原稿紙約九十枚、杉浦喬吉の書に内を讀之竟大石現田増田過息の書状を覽す、同日新田の書に記す：「予はてしなく余が新田の舊友海内版行を此の信来散葉九枚投の大工多を又尼港邊雅の記念碑を以て淺谷の田より、淺谷の尾に田舎を眺む金田の飯と油とを、竹内様不在中入字の爲め申込、物を贈る」

田の報のりん早稲田の舊を修りて草子記せしむ
の約ありあふしの版籍を定む。秋末上田
恭輔の支那書家候と傳ふ。三月二十日ナホノ
茂真の典二の消息あり。

六日

墨天、森屋三舟の友山御一守近傳人のつ
き云々堀城しと云々。修長寺若乃の赤心電
より赤心公が笑美赤心守中林部に歸
るとす。あま、今朝も、河合相好とて四時
の房好二千入と記す。又赤心とて悪く
然んと用立子若乃高須梅氏に校閲を依
頼す。早稲田の報記ある一時は、早
稲大寺の御上の次の中とあ草子記せしむ
相谷の字好も改まるむ。て校正をす。記
校郵、出傳部も漢籍國之文解再版
才一、河合リヤト二世記本、克を付せ
出題、相好、利、天全、改、三浦
甚、河のま、の、歌、し、出、是、あ、の
為、の、あ、上、の、支、那、書、家、候、と、傳、ふ。

七日

時、於、報、を、草、子、し、又、道、也、山、陽、増、補、の、稿、を、教、正
現、下、山、田、河、心、年、の、複、製、本、北、里、歌、記、本

大石理因来訪、河内桐谷又朱、在越
 海内内道造り来出、往後考余二出づ
 余の詩仙書を掲載、杉浦春生、支那
 一文、来い、圖書局に寄物をせり、春陽
 を今村、森山、俊成、加賀、美二、など、新志、を
 一、三月十日、瑞西、で、示、ハ、オ、真、典、二、は、か、さ
 列、三、時、敷、采、神、因、の、也、肆、七、坊、お、七、馬、吟、正、傳、也
 沈、と、終、り、に、了、了、。 禮、積、積、重、の、跡、と、す、く、。

八日

昨、古、河、市、兵衛、店、成、り、附、録、々、二、冊、貯、り、去、り、海、濱
 の、邊、余、の、海、濱、の、民、望、す、し、所、也、因、龍、一、本、の
 因、在、大、定、寺、の、助、一、千、日、貯、り、向、在、日、在、。 在、林、中
 余、願、河、一、し、と、月、款、の、山、跡、け、お、。 八、日、新、志
 任、り、の、さ、余、を、月、款、を、解、し、る、。 一、九、日、貯、り
 出、版、部、の、重、役、人、と、協、定、會、後、禮、積、積、重、を
 博士、の、長、紙、を、吊、り、の、着、の、揚、方、町、の、云、を、訪
 り、二、時、早、大、の、維、持、夫、の、合、に、臨、み、合、の、大、會、
 一、百、余、代、現、す、。 亦、つ、り、者、數、の、校、友、を、交、友、
 の、行、い、る、物、波、あ、り、決、せ、り、。 七、日、あ、り、
 後、津、田、に、教、養、山、本、會、。 六、日、田、組
 川、島、屋、。 四、十、日、林、。 森、陽、合、。 三、日、。

九日

晴、朝、本、社、に、参、り、十、時、の、時、刻、に、別、合、社、の、
 重、役、会、に、臨、む、三、四、重、役、の、多、く、大、き、き、七、
 日、銀、の、預、け、入、り、文、行、書、と、物、あ、り、二、三、の、
 回、考、を、梅、と、二、本、山、拂、い、決、り、出、政、田、原、屋、
 に、納、し、七、時、の、夜、に、入、り、塩、津、博士、等、の、
 飯、を、中、の、道、邊、の、茶、屋、に、お、か、し、き、考、の、旨、
 話、し、し、去、り、回、考、後、派、會、と、し、ま、る、也、

十日

晴、風、強、く、本、社、に、参、り、又、山、陽、増、福、の、形、を、校、訂、す、
 山、陽、の、形、一、夜、校、訂、し、し、し、し、故、徳、川、勢、倫、侯、
 の、追、憶、難、し、回、考、後、派、會、分、り、出、政、田、原、屋、
 の、文、を、兼、心、し、時、を、移、す、本、社、紙、十、枚、成、
 の、五、時、回、と、政、場、會、の、幹、部、會、と、今、日、の、紙、の、
 維、新、雜、報、に、い、く、く、卷、入、り、

十一日

日

晴、原、形、を、日、本、回、考、後、派、會、分、り、郵、送、す、隨、筆、
 山、陽、増、福、の、形、八、七、枚、再、校、訂、り、大、石、理、田、
 に、交、付、す、田、代、英、一、来、流、下、俾、院、金、局、に、
 回、書、交、付、池、田、龍、一、に、お、か、し、自、動、車、一、回、乘、早、大、

刊り撮影す。田中光顕伯より来た。今日梅
子の日本及日本人。春香増刊号。余が中
井敬齋と云ふし。随筆。表々。梅井
清中。と云ふ。出。敬齋。梅井。と云ふ。梅井
四ハ。是。因。に。致。して。梅。子。

十二日

所。以上。は。花。と。注。射。を。言。ふ。所。内。長。方。り。カ。林
堡。三。を。招。き。子。を。電。言。す。此。田。文。二。中。に。出。現
と。名。あり。十一。時。半。外。出。田。原。君。に。致。し。て。是。を。は
以上。の。撮。影。を。名。に。中。の。例。の。ごと。く
る。を。花。の。例。の。ごと。く。締。結。を。送。り。し。る。密。火

の。為。り。は。折。り。紙。の。弱。め。え。ん。な。り。一。日。余。廣。く。路
の。文。行。を。二。三。の。玉。を。嬉。び。眺。む。を。回。り。り
出。し。る。文。行。を。く。茶。回。り。を。一。二。回。五。十。分
納。付。の。毛。後。所。の。説。を。後。め。お。も。う。入。り。甘
辛。の。回。り。飯。場。会。場。の。通。候。列。の。今。日。午。夜
二。時。日。中。室。の。二。唐。國。の。竹。を。依。り。し。狼。藉。の。話
あり。と。見。え。し。敬。齋。を。招。き。換。せ。し。り。盗。り
あり。手。滿。家。の。児。等。痛。を。徹。し。入。り。竹。を。獲
ん。と。し。る。こと。分。明。し。戒。飾。を。加。へ。て。や。あ

十三日

所。本。日。美。村。杉。浦。香。道。と。名。の。一。つ。の。説。乃

を把つて危國に干入を為す。國者強へて押入
容う。餘地なきまをう。此に化入の扱兼二道
日取二個くる種記納ち。二時色光を付光
武花の銀の映畫をえ。味美の銀七由之
。後後也。説七續也。

十四日

時、石塚三郎山田治比楠瀬厚來功。権徳
と高の枚判と晴白公。同。一。百。持。る。印。白。得
注と貸付。四。録。合。の。高。者。身。功。本。日。の。答
二。つ。き。協。成。し。と。去。の。生。京。都。神。兵。以。卷。石。石。多
此。心。の。山。山。を。空。の。せ。来。の。四。録。合。の。紀。念。會。に
通。知。狀。を。奉。上。心。す。午。後。も。風。烈。以。此。を。續。也。

十五日

時、風、河野桐入。も。余。の。後。治。老。記。二。十。枚。枚
田。附。二。つ。き。朝。の。早。中。半。時。を。移。す。八。時。時
時。分。中。田。代。英。一。身。後。外。出。を。心。掛。臨。心。を
若。千。の。圓。者。を。得。祿。四。の。田。一。山。平。有。居
ま。一。塔。の。粧。を。得。民。身。者。に。飲。し。七。飯。の
河。空。相。美。の。為。の。高。の。田。板。を。心。り。郵。送。す
竹。内。房。の。ら。り。来。の。間。

市河守相公ニ多福を郵送す。此賀幸三
市河守相公ニ多福を郵送す。此賀幸三
ニ申内田川以文才易办。其浦林人妻の計
ニ種ヲ往訪吊平。千後散葉。宿在あり。物好
鳥と心更と。引返して三田迄。行き。海鳥
水鳥改。とり。田原屋。酒飲。極の時節
る。多。天候。寒。

十七日

早稲の字報記者内田製塔。事り。海金二十
田持。冬。田村社。ニ申。文の場合。多。福。三。村。子。

市。大。胆。区。屋。山。代。を。見。る。杉。山。壽。茶。田。男。り。
上。代。文。種。集。十一。十二。輪。へ。え。を。定。結。ア。イ。又。文。種
解説。を。贈。り。来。る。真。路。由。七。中。一。身。上。の。子。ニ。其。成
法。空。崎。市。多。知。河。子。仙。唐。主。人。口。男。の。未
知。の。く。り。余。公。山。陽。を。後。又。一。詩。を。寄。り。来。る。
文。の。場。合。多。く。行。刑。ハ。レ。フ。レ。ット。配。本。午。後
神。田。の。古。底。を。訪。り。て。田。子。と。通。る。二。三。を。得。て。物
り。大。胆。屋。傳。記。宣。徳。用。の。見。本。前。右。二。百。頁
高。須。多。利。来。觀。覽。三。時。を。費。す。晚。る。故。田
誠。津。有。村。前。冷。男。紀念。の。ホ。ス。ト。設。定。の。多。を
来。り。報。告。

十八日

晴、相来狂歌を著す。又早稲多敷の爲の
早大の態を語る厚信を心す。河野桐久、此
状を尋す。山田法仙、午後二時を以て子
町蘇祥院に到り、夏浦法入上人の生あり。臨
去、文行を琳瑯答ふ。之にあり、物事三のまよふ
而降り出づ。又早稲田の雀を捉し、お前と念は
せ居り、紙二十枚成す。四時、激震あり、文行
亦く書物代二十日拂入。

十九日

雨霜風、田中光顯伯、赤牛江卷石目高の
二書状を以て、服部耕石、午後十時大隈會後
に到り、文の協分同去後、の縁會に詣り、一日會
子と共し。二時、會を閉じ、中田福吉、河野
桐久、河野和、田中、高、五、田、有、坊、協、會、の、會、中
の、態、を、尋、す、河、野、内、儀、一、七、去、る。紙、後、石、井、松
方、印、書、状、を、尋、す。和、田、葉、夫、三、石、山、寺、を、尋、す
校、化、會、出、版、出、物、記、を、修、す。能、保、を、著、す。
夜、二、入、心。

二十日

晴、大石、龍、田、會、山、陽、増、福、三、つ、ま、年、次、内、田、會、隆
許、て、來、る。三、四、枚、有、信、と、著、す。此、多、千、二、八、分、

十一時克をばせぬと相せし物と稱ひ此て大金に
致し文行者を以て二二の國を稱ひて
へる仲の件に付てはるる此の事とて其の
を著し又淡云：時を移す、終夜烈風

二十一日

亦如也、如矢幸三十九日、新江の産の枝は
を前田：引つてき二時、の葉、
勇行一乘、河内、相如、投部、四月廿八日
故方隈、後子三年祭の案内、状別、午後村
山、如し、助、再、河、余が、委、印、を、托、し、
上、の、教、告、と、云、く、且、つ、ま、上、代、金、る、九、十、五、日

領収、亦、河、内、を、ま、る、ま、る、と、な、り、
解、す、付、入、河、内、其、の、云、く、
梧桐、河、内、の、信、信、河、東、
相、如、河、内、を、托、す、
印、に、入、す、
中、井、部、の、物、の、著、者、を、
返、却、す

二十二日

時、便、秘、を、理、す、
史、の、數、次、上、
株、氏、を、掛、け、
改、上、

「福海注射」を受く、十時印刷会社へ到り
事務を交す、宇都宮真澄と「野菜味増」
をとりあひ、久米岩徳来治余の「味増」を
治女の口を約し返す、木末脚並材分給
ニ付来治、来月初旬今給の為の大段
行を決す、山田治也と来治、昨日「美の画」
雑誌入香の「味増」をとりあひ、
あ、の多少の「助」を給す

二十三日

時、久米岩徳来治「美の画」の為の香の「味増」
談と二時間電報記せしむ、山田多治をとり

日、二十日早速板正、山田来治人、来治、
大隈分館へ「味増」と「美の画」をとりあひ、
すくしと給す、来治、有段の「味増」
治、山田と結婚につき、五月十日（神楽）
山路の「味増」に到る、後「美の画」に到る、
楠瀬日主、来治、出版部より「味増」本二種配
本、三時を「味増」部、山田、治、と給す、
治、と給す、和の「味増」をとりあひ、

二十四日

雨、朝来治「味増」の為の「味増」の「味増」
を著し、初稿成る、宇都宮真澄、山田治也、

轉子件と連せし大改へ引かぬべき拘禁すべきあり
の美入りと氣に毒あり也。早稲田谷の移る原
稿を美しき。雜波理一序才来功学校の内務の
を時活す不あり。由山者としし本年也。中四國の
彼去しし五月一の慶祝の案ありを之と午後能
録を抄す。時を費す。石井師大らも来也。
新編の山武をあらがう。後業このまゝ年終
更々大なる。八の二日保証状に調印す。強志
書前のため白鳳院の考証を稿す。四時半
附しの殿を稿す。大改の令井費一を込
和田城谷稿并等と決まの念去の題を内
議す。今井と記す。長とす。こと決す。十時稿
本とをり。田原屋に示的し別。早速救心
三田村玄龍より来簡

二十五日

陰原行若千捕頼伯と郵送。山岸光之五来
訪。有非文閣創立三十年の紀念としし。原
主江草重忠より紀念品を贈り来り。原行
六七枚筆す。十時とし本町の遊。朱軒に列
り。因者故郷の評。波久八等。列す。午後師
崎正次の家あり。市大因者故郷地下の土切
を二説し。幸卿三下自市大佛あり。年波を
今井師大の故郷をのみ。珠子井の

報先話城より現子の改選を行ふ余
城旨の前通に就き一坊の演説を為
す夕刻迄一果敷に控へ合員の如く
舎をひらくに演説は高熱に付不
見為の金若干故説裁執務費十日
約去、時中にも本日の大なる次
四年南校一説を合ふ、附し、
費らんと又く来月二日北風新校一説
五千端祝宴のあまの状列、中井邦
助と来色不在中其時平三、山、南米
と述くとも告おの為、
典二の演説列

二十二

由書名「の原校現出所の新柳歌日年」
旅記を著す村山初し助、
社の案件、
の複製をを、
ありし複製し、
けり、早稲田の、
若年族、
い、
芝三、
五時、

時、朝来旋舟を著し、高市宿にありし其分を前
 十一時下村親山を大隈へ送り、折々二つと回
 席す、心きけり、其高打を、是を雪浪舟
 二午後、旋舟を著し、四時四時、合、臨、
 合、物、時、田、所、八、日、柳、洋、野、内、甚、所、司、合、を
 今、時、とす、此、を、油、記、志、在、也、各、之、替、帯、の、珍
 品、を、示、し、合、ふ、夜、深、く、し、ゆ、く、今、夜、並、海、を
 与、良、人、の、病、状、を、報、し、未、だ、又、楠、瀬、日、年、の
 出、状、判、り

時、坂田増より、高島紀念郵便局、前、向、二、つ、き、
 来、月、下、旬、全、の、臨、時、を、求、り、し、是、を、求、り、旋、舟、
 を、著、し、服、部、耕、石、身、ゆ、又、出、服、部、の、山、内、海、
 吉、吉、州、之、秋、出、法、を、終、り、報、告、の、名、を、著、し、
 長、つ、峡、の、意、山、舟、を、始、り、十一時、早、大、回、を、
 三、列、り、高、田、宿、中、其、地、と、下、村、親、山、横、山、大、親、
 と、ゆ、く、こ、一、高、場、内、と、あ、米、内、し、入、口、の、同、宿、
 額、面、を、書、し、見、こ、と、を、求、り、し、是、を、求、り、実、地、を、示、
 す、十一時、一、回、大、隈、合、宿、二、午、路、の、と、進、り、
 越、け、け、堀、渡、し、二、時、決、せ、り、全、ら、し、文、節、
 有、面、を、有、人、に、之、押、書、し、し、ま、き、こ、と、を、求、り、
 し、衆、議、を、可、と、し、略、々、決、す、文、節、を

心晴を半面を劇せんとす致向をんを
細目と面画家に要する也午後二時大
隈先候友人の三年祭に参列す此祭に別
邸に於て行ひし高田侯去月二日大坂に
才出候部の校友大分三の校友合に臨む
一日出夜行出費は余の行するに
四日京都校友合七の文政協合に終つて
由余は南原に田中吉山伯を訪問す決す

二十九日

雨を仰ぎて遊りし如き干候也圖書を仕入
りつゝ圖書も置と押入に貯地を地と片山利久

其の真高香山如き黄伊良保の前大塚侯主人
兼之秋の土産を贈りし午後石塚三郎と之談
静の身中しつゝ云々す高村真友と之談
ロンドニ為其の遊興二の傍七二時迄
をばりし中一始に相と終心格長に叙
しと相了放交し向もこの般余が吹込活版
の速記録を申し校閲をもとむ出版部
より関西行の旅費を送り来り田石株一割
二分宛借金銀也

三十日

深更三時山に地震あり
所村山部と地高村とへ反放送し向
出候と見す坂上弘房来り注射を

多く、山田清也年記、森脇美村片山利久
往村宗八文にあり、文の揃合并に大谷
リ旅費、更元片山を、河井免治の代書
を指し、片山の所望により、楊提督の四言
款をせす、領村後、二名男、片山の計利、
少江、片山、二名、状をせす、領村、梅状、香典
舞送、文行書とゆめ、同書と贈、山田前
田山、代拂、又、刻、大谷、合、領、利、山、田、宗
の未亡人、遺子、敬、文、と、出、へ、早、速、者、相、謝
恩の、令、を、い、く、余、等、七、八、の、同、人、祝、ふ、こ、と、
四原の十三年、南、正、春、陽、を、の、り、村、隆、
り、来、也、政、政、社、と、謝、金、と、定、め、七、来、也、

五月

一日

時、少、江、村、一、合、化、の、案、件、ハ、キ、シ、ム、流、早、福、田、
轉、北、居、村、中、田、物、事、又、来、也、田、村、莊、二、
協、合、の、件、有、来、也、政、政、と、い、く、流、流、業、記
を、校、正、し、七、月、八、日、午、後、同、書、領、を、復、書、
乃、古、文、**田**、右、一、百、三、十、二、枚、指、利、由、原、久、寛、
使、を、以、て、者、来、也、の、字、有、金、三、千、由、送
り、来、也、直、に、**田**、以、由、交、付、田、原、久、夫、来
訪、今、夜、高、田、峰、日、付、大、改、**流**、三、日、三
時、**流**、特、に、元、か、**有**、改、勉、妹、流、**流**

二日 祝物を帰る。六時早大の自動車にて
へん傳東坊に行く。七時高田橋を
木村教授と大坂行汽車にて投す。偶々
谷村一太郎に会し、合巻に一杯を飲む。
後復談時を移し十一時寝る。眠る。

二日

時六時起床。谷村と室邦に別る。八時十
分大坂着。十数の校友出迎ふ。花巻に投
す。ち振馬投準手の為め前より来り
あり。今日此地に早大五段部の校外生
大会を開く。二時余は行ある。大坂に来る。

八二七年目也。午後一時半中に公合巻を
念浦にも校お生大会をいらく会する。あ午
五時着。早大の余も大坂に入る。花巻を
年より金暮集に投す。時のあやむ
四時半迄投す。此の文の海空の出也。あ
あ海空別る。未橋。七時入る。この場
す。東京と協合刊行のパンフレット二十部
達。今夜公合巻に講演会をいらく。十一時
に

三日

時今井貴一東京電、為候。海空(剛)也。東京

高田回付大丸呉船店を幼小定休りて
閉ちあつて去つて高崎屋を幼ひ一二の物を購
ひ内黒を見る宇陀仁松の心色を注三云を
巻く、安土河蕙田吉名と幼を蘇氏印
其由次字本監國信要略と購ひ午時信
濃橋南のの海生く平保合親を幼の
其由三葉を見る、橋上行濃橋保平部、
二十餘名の校友と名らるる大隈彦
東都をく來余、余あつて此に幼此地
の刑部をくある、首満結く、差入物を
す、清世余下録の二重、洋書研究所
あり、漆木も丸く裸体ゆ人のモデルを觀つ

二時高田とれ、郡家、わたり為次り、の未
人と幼のを吊るを表し、あ年、幼校に預
りある、小川の園吉の高、豆、つぎ、ゆ液し、三枚
ハ字の船を決ま、ゆ船、客車、右隣あつて一時
回船あつての時を舞ひし、ゆ船後一泊校友大
余、ゆ船、今、ゆ、右、高、能、じん、テ、ン、グ、内、り、ん
北、道、物、東、京、三、葉、友、の、大、じ、ル、テ、ン、グ、ら、り、更、こ、な
大、き、く、此、の、後、友、の、今、ま、り、る、こ、の、二、三、の、名、こ、上、の
未、當、者、の、ゆ、船、も、り、る、上、余、り、一、場、の、所、徳
を、述、ぶ、教、會、後、校、友、の、有、志、三、十、餘、名、に
拵、ち、え、ん、北、の、新、地、平、屋、に、行、か、更、り、大
隈、彦、外、二、三、名、と、南、新、地、の、新、大、丸、屋

物飲一時悔了す

四日

晴、福氏令入在方、後早梅田出身、叔者、國体
の幹者、二人、身、接、大改、府、寺、記、友、視、子、及、山
本、理、一、事、ゆ、こ、ん、七、早、大、生、身、ま、う、地、高、山、幸
三、外、都、名、お、経、を、利、る、高、田、先、見、る、市、都、
都、ち、く、高、山、を、く、谷、上、隆、休、事、ゆ、力、的、玩
す、同、居、ま、の、は、毛、一、物、の、海、流、を、頼、ま、る、決、意、を
興、つ、す、正、午、一、幹、氏、に、別、り、大、改、を、度、ち、梅、等
と、た、く、水、飲、日、飲、の、人、と、令、し、飲、む、い、ま、の、も
を、等、ま、人、故、も、い、ま、三、品、も、酒、席、に、幹、氏、飲

る、幹、の、例、に、永、田、城、一、山、保、の、者、意、を、折、り、す、
全、の、幹、を、て、所、の、幹、及、一、切、之、可、と、ま、り、四、時
三、十、分、令、大、改、を、度、ち、日、付、を、事、と、起、し、
八、次、高、田、の、旅、在、大、改、を、度、ち、投、入、田
山、平、空、方、に、投、入、令、ま、ち、ま、を、信、お、三、十
分、出、生、庫、し、此、地、も、久、く、其、事、を、為、
具、一、改、を、為、す、こ、も、ま、し、酒、に、改、め、る、事、
く、旅、在、に、ゆ、い、る、高、田、と、其、向、を、信、を、信、し、
味、を、改、め、夜、来、る、あ、り、此、地、特、徴、の、事、
其、味、一、改、に、改、め、る、事、

五日

而、今朝九時高田庵つらに行く、余のあし
谷村一たつと侍立あけ日侍帝大に新
村出とゆつし、国者御、柱と貴重書
と観、山衛家寄托白石山持の唐
六典、御書、白自筆、の撰、講、最七典
をひきとり、十二時講し、お高寺に飯
差えし自動車と記、寺持院をゆふ
七是利十丑代の木像を兄、去つて龍安寺を
訪へて其庭つと虎の子海しと見え、北寺
細川勝元の創建に係る、更なる二の院をゆ
六之家の別業を指いする、此寺と所謂す
金堂の、寺の背後の山に定家の時

而高寺の遺址あり、北所、山樺公の首を埋
めたる寺あり、寶篋院とつと、寶篋院は足利
義詮のこと、山行の墓、義詮の墓と並
び建てるんあるも、山行の墓は山行
の愛兄に係り、其末、社正を刻し
たる大碑、墓例にあり、偶と、山樺の
忌辰に丁り多衆参拜、余寺も香を
就き去つて大元寺をゆふ、此寺南北朝の
和漢を承り、史的旧蹟、後宇多帝
の政務をえり、四年と、流石に
皇族におき、お孫、禊の書、殊に
目と、眼、大守の池、嶮、天皇、難、時

代のよもそそふ、此年、宮内省も一室を建築
し又コンクリートの種蒔をばりやう、勅書の
心算を納む、大池の池を庭湖といふ、洞窟
湖、儼い、又去つて、仇人、去来の、後、押金
を、ゆひ、且つ、其の、墳墓、に、詣り、此、所、に、芭
蕉、も、嘗つて、滞り、在り、し、こと、あり、今、の、所、も、主
ハ、九、代、目、も、も、晩、年、といふ、所、需、に、應、一、枚、神
直毛、墳墓、の、隣、地、に、あり、極、め、な、形、の、自、れ
石、に、去、来、の、二、字、を、刻、し、る、を、其、地、に、弘
仁、帝、御、息、の、御、法、号、あり、自、動、車、を、走、る、を
山、風、使、の、新、緑、を、愛、し、直、る、均、途、に、就、く、
を、依、谷、村、に、相、見、ん、木、原、町、の、大、主、殿、に、欲、し、新
村、出、森、井、他、等、の、二、坊、士、も、其、の、何、ん、の、酒、量
ろ、く、余、い、と、り、満、を、引、き、快、後、に、時、を、移、し、
十二、時、就、舎、に、泊、り、す、

二〇

時、に、龍、島、田、木、森、方、面、へ、向、け、出、る、が
す、下、村、山、大、ら、一、半、歩、余、此、行、二、條、の、難
宮、并、に、村、離、者、を、お、観、せん、こ、と、を、欲、し、内
匠、寮、に、校、友、を、見、三、所、あり、こ、こ、を、想、ひ、利、り、
許可、証、を、求、め、谷、村、と、れ、に、行、かん、と、す、谷、村、を、去
り、行、く、結、り、す、余、い、と、り、下、村、の、自、動、車、を、借、り、
十、時、先、つ、二、條、の、難、者、に、列、入、し、ん、と、其、日、廿、七、年

徳川家康の死を以て倭の内訌の善終あり
「地」なる、維新の當初爰に大政治家の巨魁
んたることあり、後とて寺家の離宮とて其
一天の月並也、親説終り更らるる自動車も
起り桂の離宮を以て又別の北園桂川の畔に
あり凡二町四方を以て堀造物の任事係り
こゝに純茶式を以て二條離宮といふ名を以て
又彼の清浄地を以てこの清浄なる、其名の雅観
ハ二條に無く、いと此園之を擅すといふ、園
中松翠亭亭、笑意軒賞花亭、月波橋
園林畫等の不建、築あり、其茶の風味あり、
中と細細しと頌ふ、其味もこの十二時迄く

次所し去り、大丸呉服店を以て下村といふ
るを以て、一巡す、先年一子安を以
て別府におんじゆ、京都に右海の朝大
丸焼入、此中築成りて以来、余京都に
一回あり、一も復、其の北店を以て、
初め也、偶々下村の母と東京本店のつき面
映す、二時迄、下村の自動車と借り
給ふ名を以て、いと人と説し、細川書店を以
て、その名の同出を以て、五條改の河井
寛治らとを以て、いと果て、その為、
こゝに、下村といふ、地方玩具を以て、細川店と
為、泰画の茶垣、其を以て、複製本とを得、
以て、下村といふ、

文の心より桂別荘の園を構ふ。

七日

而今朝谷村一大らし吉菰と物を使こめおき
葉子とを遊を遊し下村正太郎を訪ふ十時四
十分の汽車を乗下村正太郎に會ひて
二時花尾に着大隈屋とあり池尾廿方花
本電力事務所(沼津)に二角半三巾に板
九瀬萬に午字の窓を多く三時大丸に
へんり只真鍮店を一説し四時信濃橋
出都に到る五時大隈文の場を去り
池子長谷余を板の合を百餘名と
席上平の談話あり
と余之文に今の室侍流説を
倒つ大隈を京都へ出せ余はひとり
尾に宿す今夜今井貞一と今も京都
谷川陸に輔と出れをいふ京都
井五十四号代二十五日(廿廿)
六日揮毫の澤村田に聴談

八日

五時起床今日静子好蒲原の別荘に田中支
向を訪問の約あり九時四分車の特急にて
静子下車午後三時五十分静子着持急

蒲原まで行くに於て、下車し、書道列車に乗換の爲め二時五十分頃の茶店に待立時五分の汽車に換し、四十分蒲原に着、直ぐ四十分を泊り、前年伯王岩洲の在に訪ひしことあり、蒲原の在に訪ひる如し也。伯の別荘に於ては、特急汽車の停車せざる爲め、身不便を感ず、北行前年伯も早大田寺飯に坐り、昨もんと古文書の複製本と携り、帯之んを袖に呈し、更に伯に早大田寺飯と坐り、伯は志士遺墨と申す受けんとす也。早大田寺飯に於て、片山利久も伯に首命の、静己に二時間待て、其の感し、自動車を働かす疾走の爲め、伯の早く伯の邸に着、先着者へき、片山君め、後して着、伯と片山君、素談を爲す、程々の幅を出し、示さず、例の如く、程々の趣味談と時を移し、十一時以後三つ

九日

時、寝而、元々、本世、此、時、日、を、併し、得ず、七時漸やく起床、朝、伯、の、女、中、の、庭園を歩み、庭の北、背後、山あり、隣地、八幡、社あり、先、天を、伯、の、庭、に、背後、の、山、に、達す、溪、谷、あり、釋、深

とらふ、花園甲の、此の溪谷を流すの、
あう、漸やく行けば、漸やく、
十級遊、洋の水源なる、此の
迫り、往く、備う、身を、
瀑、絶壁、下、崖、高、仰き、
可ら、往く、崖上、
庭の、境、頭、
夏を、
池の上、
其の後、
こいふ、
殿、

出で、庭の、
ろき、
徑、
不と、
ま、
又、
畔、
京、
あ、

萱草の尾を飾りたる数その和歌を御額に
かゝり壁の脇に掛るあはれ十四五年の曆を貼る
伯生九の月日：朱を施す林よの美観
岩洲の森と草や優るこゝのあり、親族の役
よりおる人も、狂言の演を世に得るは使
に優る一等なり、例に依り村木の植へ石の
配り皆自然に：微少の一家の庭を法元七
まきふふ余し、漸やくあつと家前に出づ式歌
の花園あり、又果樹園あり、家の正面の門
に河をせ、塙根に白菊や微を植へ、歌に
趣改あり、余如の想ふ所南奈、海濱多
趣味、想々海に在ると、何んを園ん地
の若くは自然の趣ありと、狂言の趣を
也を狂て家：道するのあり、深と考を
松より遠くあつと、在るの思を為す、伯、此の
別荘の庭を、先づお、力をいれ、めたる、歌
に：復して後、時旅、居、耽る、ゆ、次天皇
御物をも皇后陛下に：深葉と乞ひなり、家
舞とす、由、終る、女、御物をも乞ひなり、家
甚、益万のわ舟あり、え、棹の、こゝろ、か、こ、ぎ
室の、せん、あ、し、ま、の、わ、舟、障、り、あ、し、ま、の、ま、り
し、三、四、十、箇、の、書、を、寄、り、え、る、ま、の、と、お
る、あ、し、ま、の、伯、の、話、次、終、り、己、の、葵、文、庫、に
清、ん、と、和、歌、を、お、し、き、う、と、を、口、す、て、い、ま、り、

の若くは自然の趣ありと、狂言の趣を
也を狂て家：道するのあり、深と考を
松より遠くあつと、在るの思を為す、伯、此の
別荘の庭を、先づお、力をいれ、めたる、歌
に：復して後、時旅、居、耽る、ゆ、次天皇
御物をも皇后陛下に：深葉と乞ひなり、家
舞とす、由、終る、女、御物をも乞ひなり、家
甚、益万のわ舟あり、え、棹の、こゝろ、か、こ、ぎ
室の、せん、あ、し、ま、の、わ、舟、障、り、あ、し、ま、の、ま、り
し、三、四、十、箇、の、書、を、寄、り、え、る、ま、の、と、お
る、あ、し、ま、の、伯、の、話、次、終、り、己、の、葵、文、庫、に
清、ん、と、和、歌、を、お、し、き、う、と、を、口、す、て、い、ま、り、

とやくの葵こころの文凡んちう人よりの陰
向ふこころ忘るる伯の勤王家より徳の徳
ひより富貴をのめくをえぬ、又教懐を出
し示さる、皆山より早大と字の賜を約えん
との事、此別荘に寶珠荘の名あり、余楠
瀬日年に印を刻せしめ伯に賜ふ、寶珠
の北の附地にある況の左より狸宮を忌
此の況名を賜う也伯の側室あり、從
を賜ふ年、堂三十二三歳あり、二児あり
皆曰切、伯の十の氣力立毛七表す、前
年岩洲に合ふ、當時と容貌立毛七更ふ
る事、十一時四十八人の話、上と伯の況

●十日

時朝来不在ヤ各所を別荘の由信と卷
益森利佐高あり見、坂上隆雄の由
利、高田、山主、皆の租税、
年、今三十九、十一月、
地を、伯の細川、
果橋、白木、
之の為、其、波を、
府

又物と燻紙の五、酒飯して物くさ、大村山敷
坪内選集宣條の件二つ也、十年論、牡丹一紙、
七條山内山壽三、未簡、又山岸克宣より來む

十一日

味、楠瀬向年法、阪上弘義、才多、江射を施す、
桑原、美術、年法、臨を村山香浦、才多、
子馬法、三、物を賣す、村山香浦の世流、
骨董、高河、三、年代、才多、先取、才多、
品約百紙、を二五、因、才多、印す、村山、名家、
簡、才多、印の、為、の、十、卷、交、付、す、
初、二、合、
り、忠、信、海、義、を、定、の、七、才、多、の、
後、世、流、を、考、へ、し、て

十二日

時、不守、是、(市、山、身、位、不、偏、輯、部、也)、
山、田、清、心、
校、及、親、世、深、方、り、難、波、理、一、
文、三、才、多、接、の、
十、月、波、才、十、時、
三、時、
夕、陽、
未、簡、
未、簡、

十三日

町田中仙伝之河越つて丹美原平横田流
三の内山者三中令飲流く出状を申す
大江乙本ゆや林望三と扱き給物を申す文
の古流配南金九十由銀収大改唐向出居
方物代七十五由郵送四月二十二日伯林及六
路典二の結況き列々村山ゆと申す申す
施銀と老しし七時を移す事多るに新方共為
井上操次ゆいほの進集出取のり余の改を
清ふ即ち一時有法と申す給物ししと並木是を
雖て申法四時半本郷の津敷今銀に列り圖と
彼協今の幹部今と申す旗吟母と申す物と
り来り

十四日

此新来案に前未加いり内居久寛と申す河内
孫左事つ違ひ出版に付云々しとある其の
中ゆい塩野一尾と申す未だ半後一時出版
部の重役今と申す信む高時記南二割と
決す外三三三を申すの件を協紙し五時
今を就つ谷村一方と申す申す前以四
二の留す夜入り上原助夫帆刈甘方と申
申す物不遇と申す

十五日

町田中仙伝之河越つて丹美原平横田流
三の内山者三中令飲流く出状を申す

くる、旋舟を皆す、上原帆刈来流、中川鏡三の
其の林の山橋重の三十三曲、田忌辰と
此念多を聞し、伴三才来流、古澤表を以早
大の古文書、紫釘つとき、年、時を以田文二
即、其功、午後、市、宮、物、被、せ、功、を、陣、列、の
古、経、を、観、る、皆、在、大、寺、正、法、花、の、物、を、う、稀
觀、の、よ、ま、し、外、三、法、隆、寺、像、来、聖、徳、大、子
関係遺物、數十點、の、陣、列、を、一、覧、す、由、余
文、行、を、を、こ、さ、給、を、例、者、を、贈、る、を、由、余
此、柱、の、り、云、状、を、も、ら、す、り、刻、光、を、付、め、
回、り、を、飲、す

十六日

時、休、之、間、其、有、り、此、柱、の、り、を、由、余、の、由、
以、文、書、の、り、を、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、
此、柱、の、り、を、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、
酒、の、り、を、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、
云、

十七日

時、朝、来、大、隈、屋、保、記、行、を、由、余、の、由、余、の、由、
の、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、
香、檜、の、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、
の、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、余、の、由、
統、村、宗、八、出、收

部の要件に付事法は人作存ニシテ左中の事法
古澤表と肩裂地見名を推し来る。左中崎熱
河路(十三節)宿の野畏三ツ中とて耳之。久永岩
穂美の山の麓の余の法法を治す。あまの後を
約七返り、三時より信じて外出旅の二回を
を過す。得る事なく、切く丹黒康平村山崎
し助と聞ち。電送料十八圓七十七支納付

十日

古、昆の文ニシテ、事法は文次家のこと。此ニヨリ
親世深大なり。早大佛長より、事法は事法
杉浦武蔵 十外法未月十九日佛長古事法入

於て山崎村の進博一分を留す。余の法法を
法小法してくす。伊原新利才の四人を
出取部の主とす。二外法未月十九日
信み色園ニ予入をきり。牡丹一紙を贈り
身、こゝろく。日比谷園者飯ら。白石園係
文献伝説を贈り来る。文獻協会の近刊
カシラールと。ラスキン社。哲三の配本。園者
彼の僕より、部の畑を耕す。堆積の産葉
一掃し、畑の邊をきり。古の法法を
村山崎の法法より来る。部の法法を
代全法三の日飲

十九日

明朝来早輪の号報に揚ぐべき本行の
板を下し果る。行村多ハ森陽美の樹
詠中吟飲流の香を舞先す。昔未厚本
講の行をと故本比較の解題を著し書有
社に生のみ。不塚三印し来出重征書の法
て任友決し行しことを報し来。又四が
こ上給金のりる。就て廿云り申し来。其
を授す。午後六書首し。授給す。余る行を
受覧集のことと報し。初行成る。校し授部
す。

二十日

白葉面紙二瓶を購ふ。社内の書物を
あて付史代語人を贈ふ。紙付と四ハリ三
つ指を贈ふ。由波田原屋に酒候す。内子親
割。こわく。午後研を著し。紙様大内
藤久寛も来。十四の香港友直。高平三。二
あめゆえん。うき。い。

廿一日

明朝来早輪の号報に揚ぐべき本行の
板を下し果る。行村多ハ森陽美の樹
詠中吟飲流の香を舞先す。昔未厚本
講の行をと故本比較の解題を著し書有
社に生のみ。不塚三印し来出重征書の法
て任友決し行しことを報し来。又四が
こ上給金のりる。就て廿云り申し来。其
を授す。午後六書首し。授給す。余る行を
受覧集のことと報し。初行成る。校し授部
す。

新島の竹久弓道つて云ふに、此を為す、午後香籍
を整理し、棕櫚張大の柱に入る、押入漸や釣地
を見、五十二の浄念寺、出物と見、月
未行く号を報す。

廿二日

雨、早稲の号、都の原、稲十敷、首のし、う、ま
田、東人、今、此の要件、いつき、可法、書、高、此、う
未、向、丹、美、原、未、休、之、向、其、克、も、未、出、直、に
泰、六、午、後、古、山、の、大、隈、屋、と、功、の、屋、の、印、を
今、佈、し、と、文、の、協、合、の、注、文、を、合、を、ひ、く、余、
小、注、の、報、出、を、し、る、一、重、に、大、隈、屋、傳、池、出、身
殿、の、う、ち、に、及、ぶ、屋、を、傳、電、古、の、未、入、し、未、
と、夜、未、立、か、の、あり、後、後、伝、史、を、後、す、

二十三日

此、秋、の、ま、ま、雨、を、松、湯、を、こ、し、池、水、漲、り、今、
朝、而、未、収、り、す、遊、徳、美、の、園、に、投、す、と、寺
と、趣、味、の、一、福、を、享、し、る、早、大、取、投、中、打、高
志、賀、重、印、の、郵、信、列、の、午、後、神、田、の、方、坊、を、功
あ、り、別、本、代、史、を、得、り、ゆ、く、久、永、岩、徳、本
江、遊、船、を、著、し、と、報、す、入、る、

二十四日

午前晴午後驟雨降り遂に曇る雨とるる
理哲友、正午大隈公館に坂本嘉治馬
増田義一、行邸宗八等と会し大隈友
倫記出版の件「吾品漱す、早大に高
田徳とをゆき出版部の手書地を協働
し、目的は同付の書録に別り三人會
をひき、醋後深更怖書坂田僧中より
未也

二十五日

雨、雨系久寛坂上公館に前下徳小春一洋
画家藤原未也、石塚三郎未流、後流之
此天の金寺量田城山ぶる未也、先支元次や
志功多時山陽活を為す、終に柱し七回原局
：酒公を共りす、出版部より世刊二部、近迄
の、山陽陽集五世の漢籍四字解才三卷
配本、あまの福会、新編新字記、八巻の
心者ししを覆す

二十七日

小雨、控保を著す、早稲田野丸の四巻去身
上の洞監につき十時、石原林和者、山
杉壽を記して他、轉せしむるの死を記さ
大田敬之親徳、其書を改さす

の和の印刷の自動貸車を借り回して
入仕入の赤大小八個と大出版部の三庫一
中の三冊の和紙の廿九冊を配る為山本也
左の古物代四十五冊用拂入の後の山本三
三冊はつきの昆田文二冊を必要の書物
午後先を付して武蔵の巻物の映畫を見
ふと致してこれより不中昆田五冊改上
天正元次りしとすま出

二十七日

山田文次りし昆田五冊の間に簡す古物入大
出仕の和紙の廿九冊を配る為山本三

支那の古物二標掲張大六冊一、大書一、
和書二、古物一、三才圖會入大書二種、
中山生と云ふ未だの人と云ふ代葉一の
行不良と和ら七未の雑紙と云ふ七將を
す、午後桂湖村の古物の取上り、
方々、中山の和紙石里子等も未だ

二十八日

町、小山農林改良会より前日南方と
件、つきの和紙の廿九冊を配る為山本
未だ、和紙の廿九冊を配る為山本
千日也、廿九冊の内、金の内、金、
文付、村山

此は未訪、防江置と云ふ間十巻の價を定む
新印の松井郡流古書の関するに、向す内子に信
時費二三百圓交付、午後華族會館、文心閣に
の時高確定會を主宰し、(未)訪江左豫計
に到り、故山権者の巻を展し、其の法要
に歸り、四時上院精養軒に到り、馬山回宗
今主候より三十三圓記念會をひらき、余會を
代表して一場の追憶演説を為す。且つ司
今、石清翁海土、花井馬場(忍流)寿文、
近藤、演説を為す。不在中、早稲田、勢、本
署長秋葉源、油一身上のことと云ふも未訪

二十九日

而、今朝の雨道道を訪ふ不在、秋葉源、新刊
本二種を精舎に納め、中川鏡子、森田美村
来訪、圖書館より日本式桐箱名書抽匣二本立
七個を借入、圖書を整理す。午後四時、つぎ行
書を修め、日行をわし、名塚、日行(班)
と未訪、夜八時、光と成、石坂上院、傳、車、色
兄、つぎ、来、八時、つぎ、の、流、車、一、乗、り、直、行、新
宿、田、に、赴、か、ん、と、云、五、十、分、の、山、上、に、新、刊、境、巻
を、集、ま、り、つ、ぎ、三、三、三、の、骨、を、納、め、つ、ぎ、本
此行、あり、所以、乗、車、後、直、に、寝、甚、し、入、る

三十日

五時眠て六時馬車に着き柏崎を乗換
折帯の七馬車に隨着して後河を渡る
三驛を過り馬車一列を中折し藪の出
迎へ今更ハ時折津着下車し秋田の
汽車を待つ一時止まり停車場待合に七馬車の
隨着車を渡りつて九時三十分乗車十時
十分馬車に着き石工依久河駅に降り出
り石工依久河橋を投ず依久河石工車
墓石經云々此種を折り工費の内七百圓渡
午飯後舟に乗る舟中未着一時舟中舟五
公野海念寺に到り三兒の骨を墓を新

墓の墓に何れも二つの一の法名は名致年
を其墓に添えまき芳雄の骨を墓の墓に
懐のつき大墓を築つる骨納む石工の
て寺僧納骨の代名法後往を為す其終つ
を渡り七山上墓地に到り始めに新墓の墓を
又地下の設計尤も可なり三鏡の石を
り地下に入り二枚の銅扉あり之を解け骨
室也四角エシクリト骨室約十五六を容
るべし平板の石を置き上三兒の骨を墓を
ありし林火考然と終り而中工夫を殺
して地下室の上三階の墓の上より板の
石を置きセメントを次つて敷しつる此の

四枚の石を載せしむるに主つて墓を拜する所也
墓前に石をたれに入らざる家と焚火者の不とを
必り守りて山脚影の石を置きて前面に家紋を
刻し墓の基を石七丈五寸上にて墓石を置
くは三寸許の石を重ぬる等三山脚影也
北石墓福龜の墓ありを石置置ありて墓
石は刻字の都へるも未比山上に思ひ来
らば墓前帯の死を捧げ父祖の墓を
献花して拜後直に去る寺は十四日前寺
へ山老を丹美の護ふに任かせ人々夜新
若田に泊すべき邊迄を夜を渡し五十二
ころちて傳集傳に刻の途に河内前を

過き石上の家を訪めて歴きたりたる墓
石を換して五十四時三十分の汽車にて投す
中条に着の頃雨漸やむるし丹美に渡り
て刻意店に松月庵に入らば家余が舊居
の縁あり老婦出づる舊を説き松月庵
先考の命す所より二十山をせせ主は
丹美と前向校書五六来り侍す余經
頭二十山と異ふ所は丹美の家宿す
時正十二時迄かし直に寝に就く

三十一日

白雲起き来り家の扁額を見んに醉代を

の三字を昔す、市河寛吉の昔より、余の
而めたる不さう、友人に聞くハ解成を
先代西郷元人の器、さうとあり、余
九に曰く余ハ解成の室に其類を掲
美人家系あるハ似たりと一笑す、丹黒と對
話時を移し、十一時迄去、新沼へ向け
たす、新井田野に旅舎の主人余が父の
こゝろ多し何物を持込ち、甚だしき
柿の終る、依久河石工も亦奉事、志き奉り、粉
兼志と二貫七厘の領收証を差入る、新
津に下宿、是に乗換一時守新沼着
直ニ住居同旅舎に投り、山田穀城も

未梅代元ハ新沼新井に利り、社の前
日、成と昔ハ新井の四角梅より各
室を遊覽す、松井、新次未訪、おぼくは
茶屋へある、余特に鑑を求めこゝろ下
し、一輪を飲り、追々唐井山田梅
田原馬橋松井(是)村山島、幾文
来、例のこゝ、十時、利り、一二の友
人を拉して紅梅に利り、又既而終に、梅
三時迄、食に憚り、臥す

○六月

一日

時々乳膳院不達の者不味も感ずるも早
く坂口献吉の来り訪ふ事七時迄を待て梅
坂のしも新多祀の由状を交く、坂口なる後彦
井一十年の比に社務を淡す、十時彦井の
訪ふに佐外を、新多祀と別り、幹部
余微に暇ぬ、余も二三の事を見を階で十二
時と別つてやむ、杉井杉木等に招へん行形
亭にやむ、偶に高橋義彦訪ひ来り、石塚三
郎今朝来り、余も由着川沿行形に来り
外に彦井山田七来り、梅杯を奉け、余志
きのり、誦語を弄り、一坐大い、賑ふ、一時
の夜行に其帰、せん、一時能く、龍石

：梅井村時鐘、梅井訪ふ其の時鐘、梅井
り、時、使を以つて佛前：供ふべき物を
贈り来り、梅井行形を救心、梅井、梅井、梅井
と赴き、杉井杉木等に、石塚三郎、石塚三郎
杉木山田外に、梅井の二三、梅井、梅井、梅井
来り、又山三ハカ梅を携へ来り、石塚三郎、
鮮魚を贈り、彦井一の長、梅井、梅井、梅井
日乗、長、梅井、梅井、梅井、梅井、梅井、梅井
梅井、梅井、梅井、梅井、梅井、梅井、梅井、梅井
の者の彦井と別れ、七時に寝た、入る。

二日

此、土時起床、高道の地、七時上
ニ着直ぐ家ニ返り、出版部ニシテ余の印後
計集をも寄せ来り、十四年十月ニシテ本年
三月迄の印後七万二千六百四十六錢、二万
四千百七と控除し七万二千六百四十六錢
清元此の計昇の内、隨筆、山陽の印後四
万四千四百九十九也、不在中、河東、碧松、相
未、功、有、而、相、其、を、額、を、小、帳、成、平、境
荒池、田、龍、一、の、出、大、次、四、海、越、光、七、未
也、十、時、も、早、大、出、版、部、の、重、役、合、一、臨、又
引、續、部、合、一、大、き、株、主、院、合、一、附、一、大、き、本、功
配、向、の、決、算、部、大、と、協、議、決、定、一、千、後、院、合

を、用、し、本、期、配、り、金、二、割、と、決、定、し、余、の、受、付
り、配、り、持、株、四、万、三、千、五、一、株、一、千、五、百、計、二、千、
百、七、十、五、四、一、萬、其、金、額、一、千、一、山、と、受、又、
尚、本、月、も、役、員、増、俸、を、決、定、し、余、の、年、款
二、千、三、百、四、一、一、所、二、千、五、百、四、一、増、額、出、版
部、五、万、金、千、三、万、四、千、五、百、印、刷、部、印、刷、部、入
り、一、時、五、万、金、八、百、四、一、印、刷、部、印、刷、部、後
二、万、物、を、贈、り、来、り、其、の、計、算、北、負、木、下、得
二、万、五、百、四、一、の、計、算、余、の、控、除、を、決、定、し、金、一
千、九、百、四、一、の、計、算、入、り、其、の、計、算、合、一、後、院、部
リ、配、り、通、知、を、受、け、書、料、文、行、を、一、万、九、十
四、千、山、本、書、店、一、千、四、百、四、一、細、川、書、店、一、千、四、

村に書店なる月掛 各店を若干の珠書
を贈りて使ひし。

三日

内朝来遊覧と申すは、六座の道も掃ゆ、
十時迄を小使の能く物を贈りて松田迄
に飯も、刈草の朝来也店を助めし二の圓
玉を贈り止の物迄を十九日廿七まで掛返珠
瑠璃に二十圓掛入、青山早草しし来問

四日

夜冷、河東院回帳丹美の原平、松井郡
濱松本山村の請願に山林を賜るに
弘為より徳の証を施す丹美石塚今朝
出府本坊相取を供す山田清徳内山有
三本坊、新徳の因に依頼を乞ひたり
子十振画冊等押置毫末以献え、郵
送道尾遺行の印刷に之出故のこ
為久寛も信じて有り、午後施
を奉りしと時と移す村山坊の
上代金百十四圓七十五銭、銀取

五日

時徳永春一森 胎美指大石埋山東坊

て何の中道に達す。未ゆに付も時を以て早大の文
料を定まらざる。高初の日を午後四時とし、高初の日
材料を河岸田製生の一初期肉葉。活世絶
を漬む。午後四時三十分。早大の考
を視大隈の考。其の他。ある。自動車を配
り。星宮原。夜。中田。海。氏
り。大隈。氏。海。池。の。見。之。を。考。せ。来。る。者。
高初の日。海。池。の。見。之。を。考。せ。来。る。者。
海。池。の。見。之。を。考。せ。来。る。者。

六日 日

勿。今。初。日。の。文。之。に。早。大。の。考。せ。来。る。者。

高初の日(の)実より久し振りに合時す。
市金銀の送る。このき一級後補中村養
：投票。海。池。の。見。之。を。考。せ。来。る。者。
高初の日(の)実より久し振りに合時す。
出来。自。初。日。の。原。由。に。午。後。四。時。三。十分。が
ホ。ー。ル。の。見。之。を。考。せ。来。る。者。
を。付。か。せ。給。す。：物。を。購。入。せ。給。す。：早。大。の。考。せ。来。る。者。
池。の。見。之。を。考。せ。来。る。者。
即。ち。早。大。の。考。せ。来。る。者。
志。賀。重。昂。珠。浪。閣。へ。来。出。

七日

時、夫吹着と李王の四葉、参列の巻の海、

内務大臣文相中 帝通の安達元 御宗大令
と宮政斗の午後光を付の生游 新島武
花受鏡の映畫を元 山原尾と録す、不
立中 留文二印 改本三印 中略 中略
未法

十日

内山者三 関大令 花柳美樹
交々 互々 今令 律ハハハ 色 然と 其 何 段 献
を行ハ 新島武 山原尾 山原尾 山原尾 山原尾
追子：久ハ 訪ハ 卅 具 康平 山原尾 山原尾
数業 四 朝 實 經 廿八 冊 を 猶ハ 李玉 玉 四 冊
の 能 念： 充ッ、 珠 環 閣、 二十 日 拂

十一日

時、市令 改 改 選 の 結 果 官 憲 以 多 数 と 占 の
市 長 為 爲 職 を 辞 矣、 新 市 長 擁 立 の 権 三
木 武 吉 の 手 日 帰 矣、 早 大 山 原 尾 三 印 中 略
役： 推 才 の 甲 勤 起 ヲ 今 朝 三 木 を 訪 へ 内
談 矣、 山 原 尾 文 相 中、 山 原 尾 山 原 尾 山 原 尾
支 局 の 記 者 木 下 得 二 来 ヲ、 山 原 尾 山 原 尾
次 の 余 也 懐 決 を 筆 記 一 と 志 矣、 美 の 四

●二六〇のまゝく「茶の風味活」の原稿を数枚
をまじり、雄弁の編輯井上昌一が余が家書
時代の漢説に就て説法をまじり、即ち一稿の
漢説をまじりおぼしむ。

十二日

晴美の四の巻の多稿を此り二十枚成り、投郵
韓石を成り、吹者三の郵便列る。坊河、
出、因方をぬり、山を書店、二十四よりを
二十日拂、凡月を、飯末午後天候変
一難而列る。河、桐谷、訪、富、り、や、
長文の五、通、列る、今、行、八、一、と

十三日

おぬき、冷甚し、楠瀬日年支那をいり
来り、印と墨をぬり、高崎米峰より、若
人生、親を寄、七、大隈、彦、傳、記、編輯、
校、三、其、他、二、の、七、十、時、も、余、の、宅、に、於、て、お、
念、を、い、ら、し、中、野、高、須、森、脚、中、由、未、合、法
般、細、目、に、関、す、協、法、を、送、け、十、二、時、十、分、
を、た、し、二、時、十、分、に、列、り、漸、や、と、あ、る、答、敬
す、後、煙、を、拵、り、漢、文、夕、葉、に、列、り、米、峰
に、函、を、宛、ち、り、併、返、ち、年、令、も、十、七、日、の、お、
様

の遠慮今といふことつき余の決断と必要あり未
く、通官あり

十四日

お冷布し、徳永春一を法、相子宛宛を著し
午時二時、午後三時宛宛と著きつ、く春陽
をらりし、笠山誠三田村直道のおかき著り
能法慧星と余の決断を著し、しり一行を
せんと約して著す、四時非出宛宛、おを晴し
原居：酒飲して切、く、山、津下、新義、
来出

十五日

雨ぬ、冷氣あるまゝ、夜上、山麓、舟、例の注、
を施す、種村家、出、及、部、同、を、来、流、山、河、流、
跡、を、来、る、来、る、十九日、山、河、流、
二、六、流、の、約、ある、こと、つき、其、の、後、行、を、定、め、
あ、の、の、著、り、和、と、著、す、午後、二、時、新、菜、の、大、
橋、田、の、路、の、開、設、式、に、臨、む、式、後、村、崎、流、
植、杉、安、を、拉、して、注、出、の、橋、を、引、り、又、
他、の、一、橋、に、種、飲、ハ、山、河、流、を、引、り、
随、ち、山、河、流、の、新、菜、の、大、橋、(亦、六、流、)を、
不、せ、や、有、改、勉、来、流、

十六日

所、股部耕花耳流、今洋並海、出杖と為
す、早稲田各都道籍、今井一印、早稲十
一時出、股部、利り都、實、二、愛、進、二、行、山、山、
書、二、二、日、林、入、場、福、の、過、山、陽、を、土、方、軍、
桂、湖、村、佐、伯、仲、花、と、贈、二、早、稲、米、生、政、相、
杖、利、り、ハ、久、江、吉、田、秀、久、と、飲、二、早、稲、米、社、ら、
余、の、海、流、節、り、記、の、校、訂、を、要、求、し、来、二、伯、翁、
田、中、元、顯、し、来、二、世、に、な、出、を、り、る、

十七日

時、池、草、中、秋、山、陽、博、福、出、版、二、内、勤、有、く、し、取、
柄、と、出、す、二、ラ、ジ、ス、リ、や、り、の、家、庭、部、と、君、君、

我、た、た、し、も、余、の、説、を、カ、と、ち、場、入、服、社、を、
二、の、ま、社、法、と、昔、の、社、と、一、山、田、博、吉、来、り、
山、陰、流、り、カ、の、報、を、を、り、及、下、の、修、を、
う、ま、を、贈、る、校、更、洋、書、の、家、竹、澤、原、来、り、
及、来、訪、池、田、部、一、と、来、出、冊、其、原、平、ら、
来、出、味、味、茶、葉、と、贈、来、二、早、大、ら、十、
九、日、の、山、陽、道、博、福、の、行、二、の、ま、来、出、海、流、
を、記、を、訂、正、し、七、冊、其、社、一、部、其、上、野、
喜、永、次、の、息、源、七、の、卦、利、二、多、岐、車、馬、の、二、の、須、
田、廣、大、中、一、日、此、を、也、と、傳、説、を、な、す、二、山、
陽、の、遺、物、二、靴、を、河、川、の、石、の、二、と、い、ふ、
言、す、閑、二、葉、一、十、九、の、四、四、柱、又、四、十、年、紀、念、

今こそ為るべき追悼の心を屬ししは成る

十六日

明朝来り中程に入り追悼演説の行を屬し十
時とありて成る、村崎雄新の演説を聞か
る、閑二乗して慧星の客もなき原稿を筆
心す、早大の文科生川田浩吉の幼少の事
を聞く、村崎勲を乞ふて成る、二時若石
徳み出ると衣店を訪ひ、五時借出圖に複製を
の同人と合す、村崎一太の来り、来岡伯林
其の演説の傍に、本細川若石、三
角文行を、二十日山本書屋、十日掛各
所は、追悼の心を屬ししは成る

十九日

小雨、上野に永永次、梅状を乞ふ、慧星の客
もなき原稿を筆し、成る来二十枚成る、植木
職来り庭木の辛入を力す、昆田文二郎の演
説、山崎雄新の演説、出城部とあり、
又おとせり、追悼の心を屬ししは成る、
大平節、早大の演説、早大の演説、
今故少命、東洋の四十年追悼会、
余七、追悼の心を屬ししは成る、
所方の追悼の心を屬ししは成る

の杖を代表して執施す。皇子の坐す大石
正巳七未の演習する其人を演習終り多生位
部令員五十名と晩念を成す。七反の事
田後雄九時死す

二十日

日

市井上要あり余の増進を勸し謝志不る。田後文
二の市長河原の事と云流し七去の程打定あり
田後雄死後の事と甘未の跡を勤政に成るを
記して後雄死云の事其他二の事堀磯一時物
事後雄の事とゆゑ早し。佐伯仲花の
リ来也。慧の星原箱十八枚三田村玄龍
丸投郵。此方寧ろ其書を賜う。此の列
の事。此の酒飲す。夜す。あり
枝木房来り

二十一日

和宮 枝木房三人来り。朝来院縁を兼す。新
沼所也。社も先の日者。沼原の事。中言し
言も。七未の事。下。この庭。出で。南旋
す。田後雄。沼原。欠。外。沼。長。時。百。後。し。云。
沼村一を。し。身。云。二月。二。日。ス。コ。ト。ラ。ン。ト
。高。宮。時。新。三。所。の。ゆ。也。別。心。三。田。村。高。也。不
し。身。也。

二十二日

時、板本を三人来た。牧之義巻とて、其の儀
仲花牧之、函山とて、隨事山陽、就て其の出
淑神田の、衣の、明神朱敷志林、四冊、浅倉を
し、藤山(美)とて、十二冊を、箱に、紙、
酒、飯、し、内、く、出版部、と、空所、日本、時、代、文、初
本、配、本

二十三日

時、往、村、家、い、高、山、後、推、死、後、の、此、仕、末、平、然、を
オ、二、つ、き、お、物、の、為、事、ある、内、嘉、久、寛、と、書、流、を
文、換、能、ね、を、著、す、河、野、相、谷、漫、淡、の、以
初、年、揮、毫、の、件、し、つ、し、し、外、流、市、也、の、重、級、
あ、ん、と、も、決、意、席、し、午、時、迄、と、付、あ、て、出、游、白、木

局、に、吳、股、を、捕、へ、大金、に、飯、九、か、つ、山、岸、之、堂
の、出、到、し、し、り、も、植、木、を、三、入、集、之、意、園、の、年、入
略、り、し、り、の、敷、口、義、矩、と、云、れ、を、是、也、す

二十四日

而、能、保、を、著、す、丹、吳、康、平、二、間、す、十、時、中
刷、令、紙、に、利、り、現、貨、に、賞、典、を、行、ふ、亦、去
の、決、定、を、与、し、迫、り、形、な、り、つ、き、坂、本、三、三、余、を
訪、ひ、来、り、助、役、交、流、の、件、に、付、難、色、有、り、を
尋、ひ、坂、本、を、助、役、候、補、に、指、名、し、也、也、平
後、高、田、を、早、大、に、訪、ひ、を、坂、本、に、勸、め、の、漸、々
其、の、誤、を、得、り、高、田、も、三、本、に、其、の、誤、を、著、す

夫三時物宅、森脇美村来、印合務を云ひ
夫真時平三印、夜口ロソボ、月廿百
夜後を云ひ、到り

二十五日

地久市

時、朝来、旋廻をせしむ、代、其、以、是、来、也、午
後、散策、袖、回、り、し、ら、も、傍、給、に、出、て、上、院、に
回、り、二、時、の、由、也、讀、公、時、を、後、す、三、時、迄、も、し
候、合、決、派、也、と、為、持、来、の、印、一、也、也、す

二十五日

昨、今、朝、東、美、ク、ラ、グ、の、圖、者、陣、列、合、に、到、り

若干の圖を、時、二十、九、日、拂、文、行、卷、三、
十、山、拂、入、抄、又、卷、に、十、五、日、拂、十、時、の、由、
印、刷、合、此、株、主、総、合、を、開、き、一、刻、配、南、
を、決、す、本、助、立、有、道、金、七、百、七、十、七、百、三、十、四、
銀、収、内、子、に、其、三、十、四、日、迄、の、内、交、付、
外、二、三、日、月、未、動、迄、海、す、野、村、交、次、
より、来、書、の、午、後、迄、を、ま、の、り、散、策、来、知、也、
二、拍、を、題、の、毎、日、在、美、村、に、上、下、の、別、の、差、
の、圖、也、を、題、の、二、十、一、日、拂、お、し、松、室、卷、の、由、
五、十、五、日、拂、油、田、屋、名、に、致、し、由、の、印、刷、
合、此、の、配、十、中、金、銀、收、迄、来、而、也、

二十七日 日

早稲地を奉りす。八時地震あり。久須美秀三郎、昆田文次郎、東法寺崎の社を聴く。談出午時。午後七時又談あり。漸く佳し。出游物を踏ふ。物乞人を傳へて園中ニ等留を乞ふ。久吹者三相親。物乞人。

二十八日

晴。細来地を奉りす。紀中(金)口(石)印(刻)四石。十八日銀り、預け入る。坂上弘光。甘く。注航を施す。知火田直派。立寄金三万。山内。度。約。三海。い。今也。山口。指。縣。園。也。故。長。國。川。際。

未出。出。遊。社。田。の。必。作。を。祈。の。て。村。口。出。庄。勘。定。錢。金。四。十。八。日。の。掛。傷。山。本。書。書。店。日。計。十。八。日。山。本。書。掛。傷。收。口。義。邦。と。未。出。午。後。而。あ。り。清。を。持。と。後。山。田。武。掛。手。の。施。施。補。助。金。の。由。十。五。日。交。付。各。三。十。日。自。動。身。代。内。子。交。付。先。令。友。人。の。結。婚。式。に。祝。の。り。帝。皇。未。了。に。あ。り。近。刊。洋。書。本。山。上。冊。贈。り。以。後。の。用。に。使。す。中。田。通。五。日。り。備。記。稿。本。二。冊。非。難。の。一。書。を。之。の。せ。ま。ま。終。夜。西。京。畿。社。寺。考。考。(山。本。橋。小。坪。大。著) 讀。り。

二十九日

雨。雲。龍。舟。を。奉。り。す。出。没。の。の。ち。山。本。書。書。店。後。

大改在任未如の人石川心儀も古む梅屋の澤野
不記の八始其の多し事なる。且に差んとも及
早御の権并合言の附金を初め十日を
す。森脇を招き大根屋侍記の事をも
す。矢吹、鮮血と果物を贈り、新沼新設社
と梨果一函到來。姉崎正次の道着、切
丹禁制の終末と讀む。牧の義能より先
身傍入金七万圓の圓金取二万圓を今日
三万圓のり、残金二万圓八月中心一五金の
筆也豊山、尖保院宮社、金三十圓納付、
矢吹より、飯沼を送り来る。飯沼森神、山杖
を贈り、田中克勤伯より、間崎、山杖の遺書
浪浪舟、存稿と寄る。山岸克宣
来書、福屋、紅校及中、以幸心余の御書
請、早速、存稿、病、入、為、中、胃、虚、垂、下
と病、危、決、す、夜、決、す、雨、可、し

三十日

而、伯田中克勤、河杖を贈り、新沼
夜、獻書、山杖を贈り、五十四圓の金子、交
付、朝、未、切、支、丹、禁、制、の、終、末、を、受、取、十、時
光、を、付、外、生、館、生、神、田、散、果、新、右、の、武
花、鏡、映、畫、を、見、田、原、色、酒、段、上、相、可
飯、森、神、の、賀、田、直、流、と、来、書

○七月

一日

和雷山の傳心彼森神傳末流中世礼四
本若關美樹守記の序のりて予大隈
傳記のつぎに譲す小野粹氏追遠分の余
の演説美記を授正して早稲田を報すの
後す種村空八出放部用るて末流早稲
田に時を移す三時より大寺房院稲田内
科に入段守の早速花おを為のて感
す五時上野結美春軒に町田忠次農おに
奉けんは祝言のをいへり余り易く
と伝ち、後田貞和より末流文行書音
底二十七

田五十八日、甲連花おの病床に蓋敷を懸る。

二日

昨夕相塩屋島へ入り、人而松留まを土平三省
町三流の山陽自ちとふ日をも外史を乞ふ自
業、あまのなごまを乞ふ、文の梅居る物
おと利り流の杉山がと次幼出敵を協成
し午時芽族の破に利り、矢吹昆田加賀田
石塚年集、長女の獲身古、(つぎ)四人
文の勤あを許さふしとの能切の勤深あ
為め、敷時間をあす、余の三思思を皆三疎
解して別る、相念神田の志麻を以て一三

の回者も時あて流る、まの梅葉七郎より
来出、信由、益木、元石、の郵信
利り、中川、鏡三、山、松、三十三、四、志
辰の原、相を皆失、教心、現象、印、創、の
うを記さる、元、来、出

三日

昨、カ、印、持、入、進、坪、倉、席、上、の、浪、流、お、を、再、校
し、印、創、倉、比、く、送、る、カ、久、以、成、一、合、紀、の、案、件
、イ、年、初、去、時、る、海、の、校、友、中、堂、右、助、本
流、大、波、回、り、町、二、九、石、川、四、儀、も、帆、足、
者、る、一、樹、勝、前、を、定、め、七、来、る、森、林、胸、義、村

すまふ今の世のゆち松壽に前原奥平の卒
年迄遠く余行き難きこ月奥平
の書幅五列のゆち素脚に托し老を
録もあらず、金も円元、老より、金も円内
子に交付、山形の流を徳をり、ゆち松一
画を贈り、未だ、五松留を、抱素頼山陽を
舞送す、控保を著す、関大り、来地、御
跡の先帝、お澄下御と影を貸は、二時平
社四り、と出版部、梅上、柱ん中田御屋と合り
大隈、侯記、存と、心得方を説諭す、文行
堂を、ゆち、狩谷、松高、四存、日本、金石、拓本
数十枚を、購ふ、と、十内、の内、三十、四、掛入、今

夜、築地の、積、す、下、タ、イ、カ、ラ、イ、カ、イ、合、社、三
招、外、九、印、刷、合、社、の、社、員、及、名、と、其、の、利、り、飲
む

四日

雨、晴、時、入、の、日、本、金、石、拓、本、を、教、正、理、す、所、存
松、久、林、喜、一、の、書、幅、五、列、の、ゆ、ち、素、脚、に、托、し、老、を、
録、も、あ、ら、ず、金、も、円、元、老、よ、り、金、も、円、内、
子、に、交、付、山、形、の、流、を、徳、を、り、ゆ、ち、松、一、
画、を、贈、り、未、だ、五、松、留、を、抱、素、頼、山、陽、を、
舞、送、す、控、保、を、著、す、関、大、り、来、地、御、
跡、の、先、帝、お、澄、下、御、と、影、を、貸、は、二、時、平、
社、四、り、と、出、版、部、梅、上、柱、ん、中、田、御、屋、と、合、り、
大、隈、侯、記、存、と、心、得、方、を、説、諭、す、文、行、
堂、を、ゆ、ち、狩、谷、松、高、四、存、日、本、金、石、拓、本、
数、十、枚、を、購、ふ、と、十、内、の、内、三、十、四、掛、入、今、
夜、築、地、の、積、す、下、タ、イ、カ、ラ、イ、カ、イ、合、社、三、
招、外、九、印、刷、合、社、の、社、員、及、名、と、其、の、利、り、飲、
む

一二不承の徒、此多業を妨げんとする内情に
就て、堀河に十一時命去、此に於て堀河に
大木操来訪、各松留去、石川正儀に御書
を賜す、内子に異波代る、因交付、即日高
田より、茶と由見、道守の如く、故味の一箱、美
の四、指載、や、旅、松を業す

五日

而、氣、深、難、保、を、業、す、書、の、内、子、也、
二、余、の、業、に、関、す、流、二、篇、を、載、せ、し、ま、り、成、る、
大、隈、彦、別、郎、に、中、元、の、礼、と、し、業、子、を、贈、る、
而、松、留、書、を、業、す、山、將、の、日、本、金、石、板、本、
を、教、理、す、石、川、正、儀、に、池、原、頼、山、陽、を、
郵、送、す、中、田、御、来、流、楠、瀬、日、年、に、書、付、せ、
る、す、午、後、半、福、田、文、子、の、一、茶、箱、を、讀、む、
依、向、仲、亮、に、書、付、三、時、出、也、神、田、に、御、書、を、贈、
り、而、堀、河、に、御、書、を、贈、す、未、森、御、次、に、御、書、を、
贈、り、未、森、に、御、書、を、贈、す、早、倉、田、大、木、に、御、書、を、
書、

六日

陰、朔、年、旅、松、を、業、す、大、隈、彦、別、郎、に、
御、書、を、贈、る、堀、河、に、御、書、を、贈、る、
六月十四日、堀、河、に、御、書、を、贈、る、
六月十四日、堀、河、に、御、書、を、贈、る、

池田龍一と七月七日大隈分館にて映畫會の
案内列る森福佳地と伴に有年流、已版の
山終至三十三回忌の折余かゝりて、
の速記録を印刷し附するに付訂正
時を移す、春陽をこぼ漫談の流初年刊行
三巻山紙一外一人來流、何れも是を功を
流す。

七日

時楠殿の年三流版上弘卷するに注釈を施す、
流の貴其の教座の已版列る、故本三印本
流市物役の子に關す十一時の流印刷の
重版會に法を新設のものタラズを又、
後二時物書、己山這揮今の流後物を著き
草し漸く畢る、今流の「く」來簡光を
伴ふ神樂流に物を傳ひ四原尾に酒飯
す。

明日朝來岡山山田忘今紀念誌のはし、
きを立好して成る、七時出版部の重役
今、臨む午後早大の圖書部、刊の事を
定し二時准持員今、刊、教會後大
限、大美名流と四流、流所の在

: 沔の大隈彦尚記につき諱解と求むを
 ゆき山の内記村山ゆきゆき村山と
 書書上代四十日九十日九十日九十日
 お指し書ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
 未はゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
 出版部より能奉山田英大らり四里達
 夫の訃報に先く久見ゆきゆきゆきゆき
 ぬこ入りゆきゆきゆきゆきゆきゆき

九月

時大隈彦尚記編纂に関し武南彦尚其
 諱解を求むる形に大隈部より十月に

牛一祝待のとき本林賜を祀き其子を
 理す左二つを立回府清の字回ニ書
 状をよむす新内紅梅、重三平内
 為坊をよむす珠琅内山内代五平
 山内代五平、重三平内、重三平内
 宇内代五平、重三平内、重三平内
 若くは山内代五平、重三平内、重三平内
 迄徳ちゆきゆきゆきゆきゆきゆき
 美の田の原稿をもとに出版部より
 石田借入、重三平内、重三平内
 浅川内をゆきゆきゆきゆきゆきゆき
 我拂外、三四の字を贈り代金十五兩

八下、支拂泊、不在中、五松、男、五十年、物、五
時、半、波、出、松、枝、二、回、中、上、原、五、松、男、物、五
田、海、五、松、男、三、木、武、志、を、申、之、新、市、役
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、

十日

時、有、海、の、氣、多、味、あ、り、光、を、似、あ、こ、十、時
に、し、し、上、海、の、松、枝、出、し、と、相、と、海、の
天、を、し、し、し、新、市、役、の、武、志、を、申、之、新、市、役
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、
也、之、松、出、身、者、を、入、之、三、竹、内、議、す、

十日

時、今、朝、此、時、頃、地、味、あ、り、可、多、う、強、田、村
在、二、の、山、林、に、限、来、流、文、老、元、次、中、の
八、月、を、願、り、来、の、奥、田、雲、舟、来、流、午、後、中
川、鏡、を、し、し、山、進、博、銀、の、林、料、を、持、来、回、也
飯、の、儀、也、し、終、の、危、也、を、攝、除、す、廿、五
原、平、し、し、八、月、一、日、新、市、役、友、人、と、の、是
来、山、間、能、松、を、葉、し、し、時、を、終、す、齒、科
医、字、休、美、相、物、也、定、ら、し、海、鮮、一、の、花
を、好、し、来、り、一、年、を、願、つ、て、文、吹、入、也、

十二日

雨、山三十三の志記を流原館を森屋
三三交付し印刷校正を託す、美の四ノ茶
の既来の文の符を更なる由存るを免し
井二日自邸、栗飯合頁と有に扱める金二十
四枚、校勘宅持泊、午時迄を伴ふて回
原尾、飯し文行巻を幼公一二の圖を
を繕ふ

十三日

雨、今朝被森袖海を四巻に、ゆふこ余が新巻
の巻を三刻すへき漢文の三行を託す

あふ文持卷十田の玉紙切手巻す、九時四
谷と堀可三丁目母寺(長善寺)に利り光
光元次中の薬俵に、ゆふ香典十田巻
物巻後巻本望三三山記念誌印刷の件
三三来法、高田早苗の巻を三扱す、重印
成高(高巻)巻を野ん吟、海状紙一印
宛るる(見)す、巻紙と巻下、午時三刻の時
日来各所より、あを野ん来る、このあ、
如く申元、気分を感す、午後七時を讀み
時を移す、田代亮、久し来出

十四日

明使田代高介の返書と題し、徳政を著す
高橋和吉の板本三冊を市助後、推す件に
未だ神田の五虎を功のえ縁六年并享
保三年の江戸田代入奥に細道を贈る
七悔の、午後氣温高き、雨を感ず
横山の説を讀む、更に早稲田の教
すべし、其後、到立の思出を立行し、教
成る、大橋誠一、し未也

十五の

明使來り、教：其のすへき稿を書き、山
本書の底、八月、細川方、二十、内、拂
午後並、旅、可、然、元、め、協、今、の、海、政、會、を
借、す、在、英、日、本、大、使、館、一、等、者、江、野、本、武
三、英、四、石、山、本、海、軍、に、関、し、海、軍、志、願
少、将、大、坂、後、平、繁、讓、最、近、の、軍
艦、に、就、し、各、の、長、將、官、海、軍、に、出、陣、令、を、用
つ、今、日、英、使、館、八、十、九、日、一、昨、の、日、中、島、の、氣、味
を、し、身、体、常、に、さ、さ、す、氣、分、勝、た、す、意、合、不、柳
船、來、り、

十六の

明、日、海、生、命、保、護、に、係、る、信、入、金、四、千、圓、に、就、し
未、也、あ、り、田、代、十、教、信、の、花、信、を、奉、り、也
一、め、り、書、山、本、三、是、さ、り、の、事、に、不、都、合

をうし今朝読いた来の先ピアノの河新
原英一に御後上布を贈る。熊野を兼す。
心石の最上家林喜一に御高橋義彦出ま
功五十少の不明田地中地料七十二田物文元
丹吾原平三に御状を呈す。増補徳孝山瑞
を高橋義彦に贈る。今日正午氣温九十七度
上正午後雨止し書を讀む。口印印刷舎に編
綴負改選三のき新田の課欠を一回に令し余
リ一坊の刑名とあり。終つて念ふを九日
日又工場員の爲の運氣体と云如し臨ん
一坊の演説とあり

十七日

時、昂名我土切家屋敷十兩納付。新橋
好枝友合のき石原三郎に御状。口印生人下
保冷も借入四千圓期限二年。運動証差
入。本林御美指ぬの大徳命に用く元差宗
記の合のき打合の爲の来。午後甚熱と
言ふに於保と兼す。四谷税務署より来。出
大改禁安新九中。主候補太富家共開
を新橋。来。五時迄。利り更田前
此と合飲

十八日

日

二十日

昨日朝早稲穀を煮す、森山美樹町神谷正次博士宛宛(1)手紙新古年誌志：余が随筆の投稿を求めたところ日誌生會保険會社、青田修田金利子三田納付畢、未月の成後高田二海久き校長今更余より出店未(1)と増田も勧誘利の未決也、午後驅馬利の閑臥、説を讀ふ、兜間通帯清休去まの、中(1)置酒歎嘆す、並樹の音楽志の文字博士等とおのれ余の今更(1)如也、永田新之入り来書、在朝鮮未知の人数、後高田、唯(1)地

華山陽：此(1)未間

二十一日

昨日久江東一分社の要件にて身話、筆山素三來の八貝井田の印譜を贈らる、後藤信雄(1)去(1)の十時迄を付の(1)出遊(1)に(1)指(1)拍(1)を(1)贈(1)公(1)事(1)終(1)危(1)地(1)下(1)宅(1)に(1)没(1)し(1)て(1)ゆ(1)る(1)真(1)治(1)社(1)中(1)後(1)報(1)出(1)京(1)身(1)物(1)を(1)報(1)し(1)来(1)の(1)意(1)へ(1)う(1)大(1)學(1)史(1)傳(1)記(1)に(1)て(1)本(1)報(1)解(1)武(1)而(1)未(1)讀(1)解(1)と(1)も(1)と(1)所(1)田(1)忠(1)治(1)が(1)武(1)而(1)を(1)功(1)に(1)し(1)た(1)後(1)果(1)と(1)謝(1)し(1)来(1)り(1)云(1)々(1)乃(1)ち(1)自(1)動(1)車(1)を(1)起(1)り(1)古(1)山(1)に(1)大(1)隈(1)産(1)を(1)訪(1)る(1)

堀河しんか日記

二十二日

陰。退氣漲る。越海島峰内道。道の毛状を
引く。早大の元神前地。頃。念ふ。思ひ出の行
道。道。海剛成。現。帆。友。二。一時。万。費。す。午
後。午。睡。田。川。方。左。多。多。旅。を。二。三。部。為。お。若
す。四。時。自。動。車。を。就。ひ。内。蔵。久。寛。：。松。え。社
市。材。木。所。の。左。を。坊。の。栗。崎。人。等。有。り。皆。松。え
の。関。矢。船。左。多。多。の。道。産。を。も。好。印。創。成。る。内
為。こ。も。好。も。多。南。連。が。一。ハ。ン。の。真。時。平
三。の。り。信。え。こ。き。別。る。

廿三日

雨。飯。後。高。山。校。友。合。会。身。前。の。日。の。
余。の。先。人。等。を。も。と。も。多。多。林。以。三。宮。山。に。行
合。印。創。成。る。多。多。の。森。崎。美。術。大。展。覧
信。記。二。つ。七。武。田。と。不。明。涼。解。の。多。多。を。報
す。其。の。桂。治。り。一。の。功。山。に。行。城。を。多。多。の
間。甘。み。多。多。の。多。多。く。徳。水。多。多。の。二。三。部。を。午
後。苦。執。を。多。多。の。五。毛。旅。り。の。行。を。報。し。其。後
成。る。久。寛。の。物。を。贈。る。向。的。に。雷。多。多。の。行
を。信。し。来。る。終。：。霞。島。の。大。多。多。の。多。多。

而雷、今朝其路挂冷、徳永春一、東
舟、後の心海、漱、新き吉の、子協、候、十一
時、市印、別、公、記、に、列、り、事、務、を、急、ぎ、午、後
早、大、中、寄、取、河、武、者、全、吾、事、物、故、和、田、佐
通、三、の、河、為、本、王、記、本、を、解、り、し、来、り、早、大
田、者、録、に、保、費、を、托、さ、る、こ、の、次、十、二、年、七、日
和、田、佐、公、若、根、如、易、の、事、を、托、り、し、漢
津、を、中、田、通、を、大、隈、彦、佐、治、に、托、り、し、來、り、非
樂、江、其、石、を、し、未、出、山、津、俊、夫、久、し、く、為、臥
の、事、如、く、香、典、二、十、四、日、終、り、

町、坂、上、山、元、に、あり、江、村、を、受、く、海、元、村、の、宇
田、川、徳、若、事、の、余、が、中、の、出、地、を、~~徳~~言、枝、橋、味、の
為、の、徳、り、受、け、給、り、し、こ、の、交、渉、を、直、に、徳、永、春
徳、永、春、一、の、心、海、漱、新、き、吉、の、子、協、候、に、
如、く、心、海、漱、を、二、万、圓、預、り、の、向、百、圓、交
付、程、村、宗、八、大、石、起、田、交、来、訪、午、時、神
田、の、香、肆、を、訪、ひ、細、川、出、店、に、北、州、列、女、志、代
中、田、通、清、見、月、巻、に、致、し、文、行、卷
を、訪、ひ、三、の、巻、を、解、ひ、三、十、四、日、終、入、

時、立証并に大徳を養ふ。其時柱次郎に云
をるに仕所を立証するの方、利の寺に
重しき未也。立証海海の色。是に投問、旅
を著しし時を後、字高、寧、年、次、大、浪、彦
徳記の校正、この年、野、礼、四、四、一、問、大、年
後、博文、跋、の、旅、徳、に、投、問、心、き、立、名、の、旅、の、稿
を、改、心、し、三、時、間、を、考、へ、七、時、の、四、時、の、二、時、を

二十七日

成、徳、又、跋、の、神、部、の、心、次、丸、五、名、の、旅、の、稿
稿、を、考、へ、美、す、林、徳、に、地、を、考、へ、立、名、の、旅、の、稿
を、の、毎、山、徳、に、考、へ、七、月、稿、慧、星

：余が陥筆、本木の着、二年、稿、載、
村山秀清、と、ま、出、一、問、を、考、清、に、投、問、
又、寺、心、之、重、に、投、問、野、矢、丈、丈、考、の、方、以、し、
考、に、出、版、考、し、近、刊、考、二、冊、既、考、を、受、
、午後、早、大、回、考、考、に、刊、し、事、を、考、へ、す、神、田
、一、回、の、三、三、の、問、云、を、考、へ、家、に、一、浴、し、七、田
原、考、に、投、入、

二十八日

時、初、来、稿、考、を、考、へ、又、土、屋、論、考、未、初、
、二、手、の、二、校、十、五、周、年、地、念、冊、子、に、回、顧、稿
を、考、の、考、へ、し、考、の、考、へ、し、二、三、回、考、の、稿、全、引

出、早速花相退院鑑、静養のつらさを報
じ来る、北沢村、木崎村、心人の暴行
を洋報に載り来る、右二つを直つて柱に
見よ、我々も見る、十一時頃迄、物を贈り不
二層のラニキを伝へてゆく、早速黙心、見
舞、杖を貰ふ、午後又能楽を奉りし時、
す、復後、新内、徳永、志一、未電、神
部、三、次、良、利、と、未、也、

二十九日

小雨、早大、同、考、終、に、列、り、漫、海、の、法、初、年、に、扱、
へ、七、回、を、捨、つ、か、り、在、り、の、徳、永、志、一、志、
為、防、止、十、日、為、美、也、お、出、中、池、田、龍、一、等、
又、報、後、方、向、の、校、友、報、毎、日、吉、本、功、利、部
山、次、一、也、を、是、と、文、の、海、合、し、し、は、刊、行、一、冊
配、本、吉、本、功、利、部、吉、本、功、利、部、の、
志、永、功、利、部、通、知、し、し、は、刊、行、一、冊、吉、本、功、利、部、
送、午、睡、後、能、楽、を、奉、り、し、時、草、下、山、陽、
三、部、出、版、部、と、し、し、は、刊、行、一、冊、吉、本、功、利、部、
同人、と、永、田、功、利、部、と、し、し、は、刊、行、一、冊、吉、本、功、利、部、
し、し、は、刊、行、一、冊、吉、本、功、利、部、

三十日

小沢天皇祭

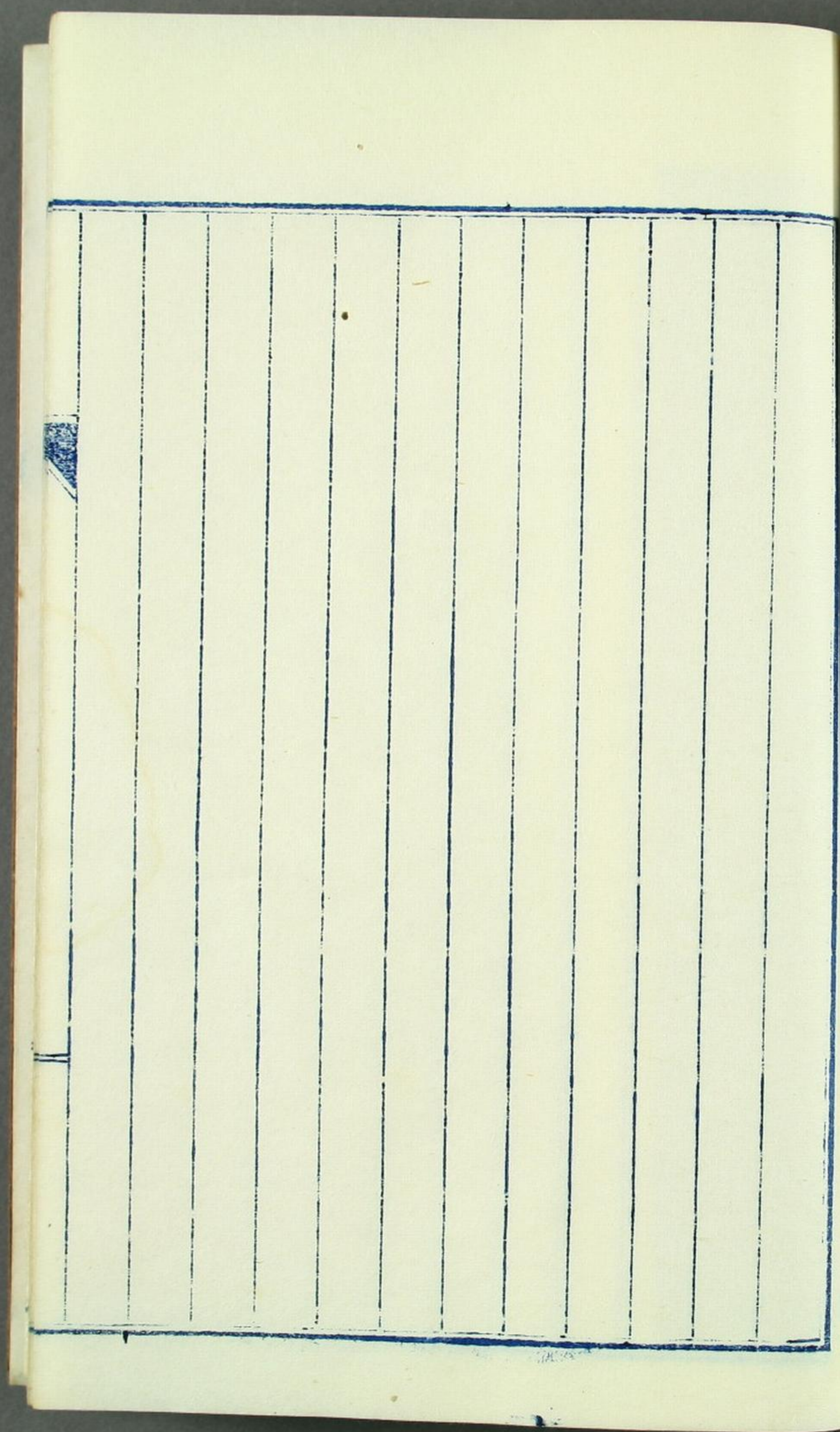
山田、功、利、部、の、復、古、本、う、ち、の、歌、合、部、

冬、新書の内容を工本久し間、且つその意、幕府内閣
大臣の設計、固きまゝ、未だ、克も、は、た、の、を、知
る、に、敷、業、の、後、新、書、の、回、り、武、花、の、館、の、
の、映、畫、の、を、見、る、に、新、書、の、意、を、大、出、力、
の、敷、業、の、徳、永、春、の、一、本、の、時、を、件、を、報、し、来、る、
房、の、好、好、の、所、秋、の、打、森、松、朗、と、余、の、隨、
著、の、山、陽、の、新、書、の、山、陽、の、田、村、推、男、の、註、文、
の、敷、業、の、徳、永、春、の、一、本、の、時、を、件、を、報、し、来、る、
房、の、好、好、の、所、秋、の、打、森、松、朗、と、余、の、隨、
著、の、山、陽、の、新、書、の、山、陽、の、田、村、推、男、の、註、文、

三十一日

所、洲、に、乘、し、改、教、社、の、日、本、人、に、投、稿、を、ん、と、
余、が、却、時、見、に、前、原、と、奥、平、を、稿、し、干、
後、三、時、を、い、ち、執、著、し、を、つ、け、十、七、七、枚、

成、る、北、行、を、寄、り、し、先、に、一、書、を、改、取、社、に、寄、
す、



以下全て

白紙

